

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第228集

周防畑遺跡群 **下北原遺跡Ⅱ**

長野県佐久市長土呂下北原遺跡Ⅱ発掘調査報告書

2014

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第228集

# 周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ

長野県佐久市長土呂下北原遺跡Ⅱ発掘調査報告書

2014

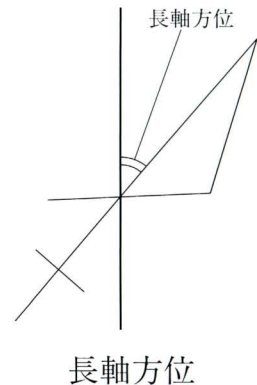
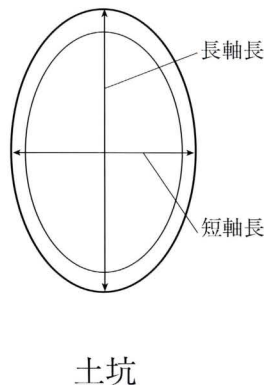
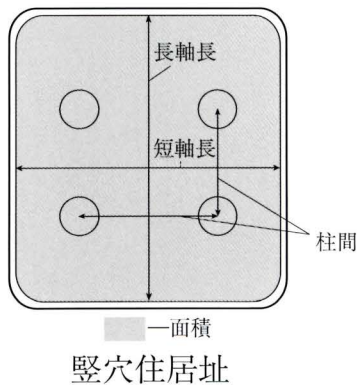
佐久市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は佐久市による平成26年度斎場施設建設事業（進入道路築造及び代替地の造成）に伴う周防畑遺跡群下北原遺跡Ⅱの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 佐久市（環境部新クリーンセンター・斎場整備推進室）
- 3 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地 周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ（SKHⅡ） 佐久市長土呂
- 5 調査担当者 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡 例

- 1 遺構の略称は以下のとおりである。  
H－竪穴住居址 D－土坑 P－ピット
- 2 挿図の縮尺は以下のとおりである。  
遺構－竪穴住居址・土坑・ピット 1/80  
遺物－土器・石器1/4
- 3 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 4 遺構の標高は、水糸高を標高とした。
- 5 調査グリッドは4×4mである。
- 6 遺物表中の〔 〕は推定値、〈 〉は残存値を表す。
- 7 スクリーントーンの表示及び遺構の計測、長軸方向は以下のとおりである。



# 目 次

例言・凡例

目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
第1節 発掘調査の経緯	1
1 開発事業と保護協議	1
2 文化財保護手続き	2
3 調査体制	2
第2節 発掘作業の経過	3
1 発掘作業	3
(1)遺跡の名称と記号	3
(2)遺構の名称と記号	3
(3)調査区の設定	3
(4)調査の方法	3
(5)日誌	3
2 整理作業	4
(1)整理の内容	4
(2)資料の収納	4
(3)日誌	4
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	6
第3節 発見された遺構と遺物	10
第4節 基本層序	10
第Ⅲ章 遺構と遺物	13
第1節 竪穴住居址	13
第2節 土坑	13
第3節 ピット	15
第4節 遺構外遺物	22

写真図版

抄録

# 第 I 章 発掘調査の経緯

## 第 1 節 発掘調査の経緯

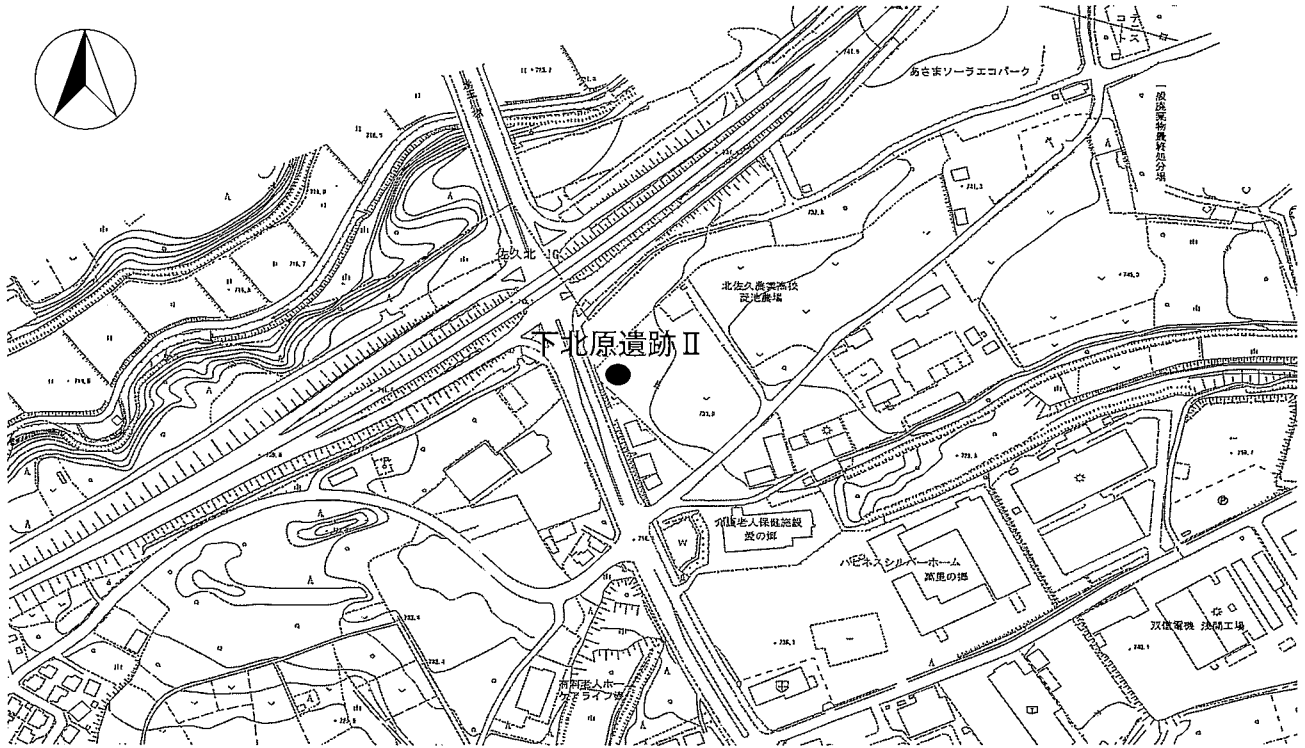
### 1. 開発事業と保護協議

周防畑遺跡群は佐久市長土呂に所在し、佐久地域特有の浅間山の麓から放射状に延びる浸食谷に挟まれた南北方向に細長い台地上（田切り地形）に展開する、弥生時代から中世に至る複合遺跡である。特に遺跡群南の佐久平駅北側周辺地域は、遺跡の密集する地域として周知されており、道路改良、区画整理事業、店舗建設等に伴う多くの発掘調査が実施されている。調査対象地は、遺跡群北方の、南に向かって緩やかな傾斜を示す台地北西端部に位置し、標高は737.5m内外を測る。開発地域近隣における代表的な調査としては、北方の田切り対岸において中部横断自動車道建設に伴い県埋蔵文化財センターが実施した鎌田原遺跡の調査があり、古墳時代前期及び平安時代末の住居址等が発見されているが、遺跡群南方の遺跡密集地に比べると希薄な地域である。

今回、佐久市環境部新クリーンセンター・斎場整備推進室による斎場建設、進入道路築造及び代替地の造成事業に伴い、開発地域一帯が周防畑遺跡群に含まれることから事業課と文化財保護協議を重ね、試掘・確認調査を実施する運びとなった。平成24年12月には斎場建設予定地、平成26年3月には進入道路部分及び代替地の試掘・確認調査を実施し、後者から竪穴住居址・土坑等の遺構が発見された。そのため再度文化財保護協議を行い、遺構の発見された進入道路及び代替地部分の発掘調査を佐久市教育委員会が主体となり実施した。



周防畑遺跡群 下北原遺跡II位置図 (1:50,000)



周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ位置図 (1:5,000)

## 2. 文化財保護手続き

平成24年10月 2日

土木工事のための埋蔵文化財発掘の通知 (94条書類)  
(斎場施設建設)

平成24年10月15日

周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について (通知)

平成24年12月 5日

試掘調査等終了報告 (県・開発主体者)

平成25年12月26日

土木工事のための埋蔵文化財発掘の通知 (94条書類)  
(進入道路築造及び代替地の造成)

平成26年 1月20日

周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について (通知)

平成26年 3月13日

試掘調査等終了報告 (県・開発主体者)

平成26年 6月 3日

発掘調査終了報告

平成26年 6月 3日

埋蔵物発見届

平成26年 6月25日

埋蔵文化財の認定通知

平成26年12月

譲与申請

## 3. 調査体制

調査受託者

佐久市教育委員会 教育長 土屋盛夫 (～平成26年5月) 榎澤晴樹 (平成26年5月～)

事務局

社会教育部長

山浦俊彦

文化財課長

三石宗一

文化財調査係長

比田井清美

文化財調査係

小林眞寿 富沢一明 上原学 神津一明 久保浩一郎

嘱託職員

林幸彦

調査主任

森泉かよ子

調査担当者

上原学

調査員

赤羽根充江 浅沼勝男 磯貝律子 岩崎重子 岩松茂年 小幡弘子  
神津千春 小島真 小林節子 中澤登 羽毛田利明 比田井久美子

## 第2節 発掘作業の経過

### 1. 発掘作業

#### (1)遺跡の名称と記号

遺跡は佐久市長土呂に所在し、事業予定地が佐久市遺跡詳細分布図により、周防畑遺跡群に含まれている。また、周辺地域で道路改良事業等に伴い、周防畑遺跡群下北原遺跡の調査が実施されていることから、本事業に伴う発掘調査の遺跡名を「周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ」と名付けた。略号は「SKHⅡ」とした。

#### (2)遺構の名称と記号

H－竪穴住居址（地面を円形や方形に掘りくぼめ、柱穴・炉・カマド等を設けた住居と考えられるもの。佐久市では明らかに平地住居と考えられる遺構は発見されていない。）

D－土坑（地面を円形や方形に掘りくぼめた、陥穴・貯蔵穴・ゴミ穴等と考えられるもの。ピット・竪穴状遺構と区別するため、径または長辺が0.9m以上2.5m未満を土坑とした。）

P－ピット（地面を円形や方形に掘りくぼめ、柱状のものを建てたと思われるもの。土坑と区別するため、基本的に径が0.9m未満とした。）

#### (3)調査区の設定

調査区上に国家座標（世界測地系）に基づく40×40mの大グリッドA～Cを設定し、これを更に4×4mの小グリッドに分割した交点に、木製の遺構測量用基準杭を打設し、頭部に釘を設置。グリッド名は、大グリッド（A～C）を北から南方向にひらがな（あ～お）、東から西方向に数字（1～10）を使用して小グリッドに分割し、グリッド名A-あ-1グリッドのように設定した。

#### (4)調査の方法

調査は、重機により遺構確認面まで表土を除去し、排出土は事業予定地内の指定場所に移動した。その後、人員による遺構の遺構検出作業を行い、基準杭の打設を行った。検出した遺構は命名後、調査を開始した。通常住居址の掘り下げは、4区画（Ⅰ～Ⅳ区）に分割し、対角のⅠ・Ⅲ区を床面まで掘り下げ、セクション図作成後、層ごとに床面まで完掘を実施するが、今回は小規模住居であったことから、2分割で掘り下げを行った。床面検出後は、壁溝・ピット等を確認し掘り下げた。写真撮影、平面図作成を実施し、住居址掘方は、掘り下げ後、写真撮影及び図面の追加作成を行った。遺物は、地区ごとに取り上げた。遺跡・遺構の全体写真は各遺構の調査が終了した時点で撮影した。遺構の平面図作成は調査区内に設定した基準杭を利用した遺り方測量により、調査担当・調査員が実施し、縮尺は1:20を基本とした。写真撮影は担当者が行い、デジタル一眼レフカメラと35mmフィルム一眼カメラによるカラーリバーサルで行った。

#### (5)日誌

平成24年11月27・28日	斎場建設予定地の埋蔵文化財試掘等調査。
平成26年 3月10～12日	進入道路及び代替地の埋蔵文化財試掘等調査。
3月13日～	文化財保護協議。進入路及び代替地部分において遺跡の広がり確認された地域の発掘調査を実施する運びとなった。
4月30日～	重機による表土除去・駐車場整地・廃土処理作業開始。 簡易トイレ・ハウス等設置。遺構検出作業。
5月 2日	廃土排出路整備作業。
5月 7・ 8日	遺構検出作業。機材搬入。
5月 9・10日	碎石搬入・整地作業。
5月12・13日	遺構検出作業。
5月14・15日	基準杭設定。遺構検出作業。遺構掘り下げ。（H1・D4・D5等）
5月16日	H1・D1～D8・ピット掘り下げ、図面作成、検出作業。
5月19日	H1、D3・D8掘り下げ。ピット・土坑平面図作成。全体清掃作業。
5月20日	全体清掃作業。調査区全体写真撮影。一部機材搬出。
5月21～23日	ピット平面図作成。一部機材整理作業。
5月26・27日	重機による遺構埋め戻し及び調査区の整地作業。
5月28～30日	簡易トイレ・ハウス等撤去作業。器材搬出作業。

## 2. 整理作業

### (1)整理の内容

整理作業は現場作業雨天時及び終了後に図面整理・図面修正、写真整理、遺構・遺物図版作成、遺物洗浄、遺物注記、遺物接合、遺物実測作業、遺物写真撮影、割付本作成、原稿執筆、印刷製本、遺物・図面収納作業を実施した。

遺物実測は調査員が1/1で鉛筆実測したものを、1/2でトレースし、報告書掲載時の縮尺を基本的に1/4とした。

遺構図版は、1/40で鉛筆による仮割付を行った後、製図ペンにてトレースを実施し、報告書掲載時の縮尺を基本的に1/80とした。

報告書の原稿はマイクロソフト社製「ワード」、表原稿はマイクロソフト社製「エクセル」を使用し、遺構・遺物写真撮影はニコンD90を使用した。

### (2)資料の収納

作業が終了した図面は、原図・印刷用図版一式をファイルに収納、写真はアルバムに収納したネガ・データと共に文化財課耐火収納庫に保管した。遺物は、報告書掲載図版と照らし合わせ、遺構ごとにコンテナへ入れた後、報告書使用遺物と未使用遺物を分けて文化財課遺物保管施設に収納した。

### (3)日誌

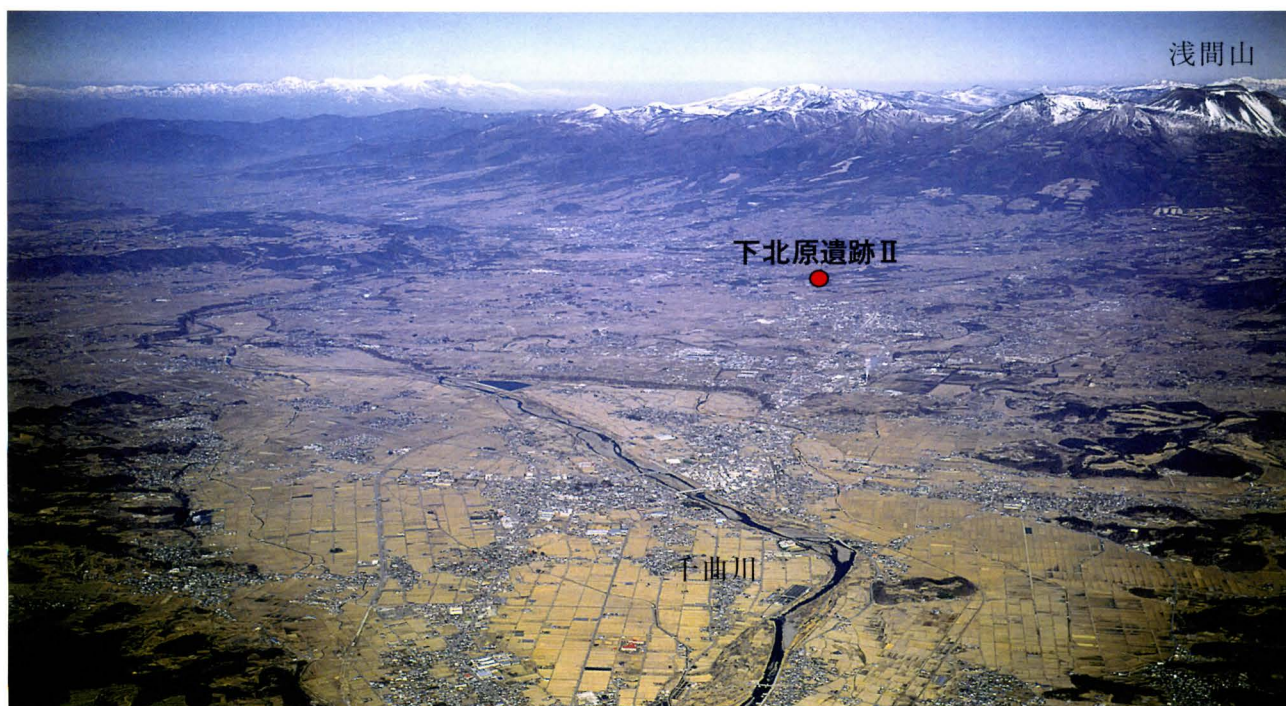
平成26年 5月 8日～10月2日

	図面整理・図面修正、写真整理、遺構・遺物図版作成、遺物洗浄、遺物注記、遺物接合・補修修復、遺物実測作業、遺物写真撮影、割付本作成、原稿執筆。
10月 3日～	印刷製本、遺物・図面収納作業実施。
12月19日	佐久市埋蔵文化財調査報告書第228集 周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ刊行。

## 第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

佐久地域は、周辺を山地台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には雄大な浅間山、南には蓼科山が存在する。東には群馬県との境を成す北関東山脈の北端が延び、西は御牧原・八重原といった小高い台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久地域における水系の代表は、南方の川上谷に源を発す千曲川であり、北流しながら支流を集めつつ水量を増して佐久平に入る。その

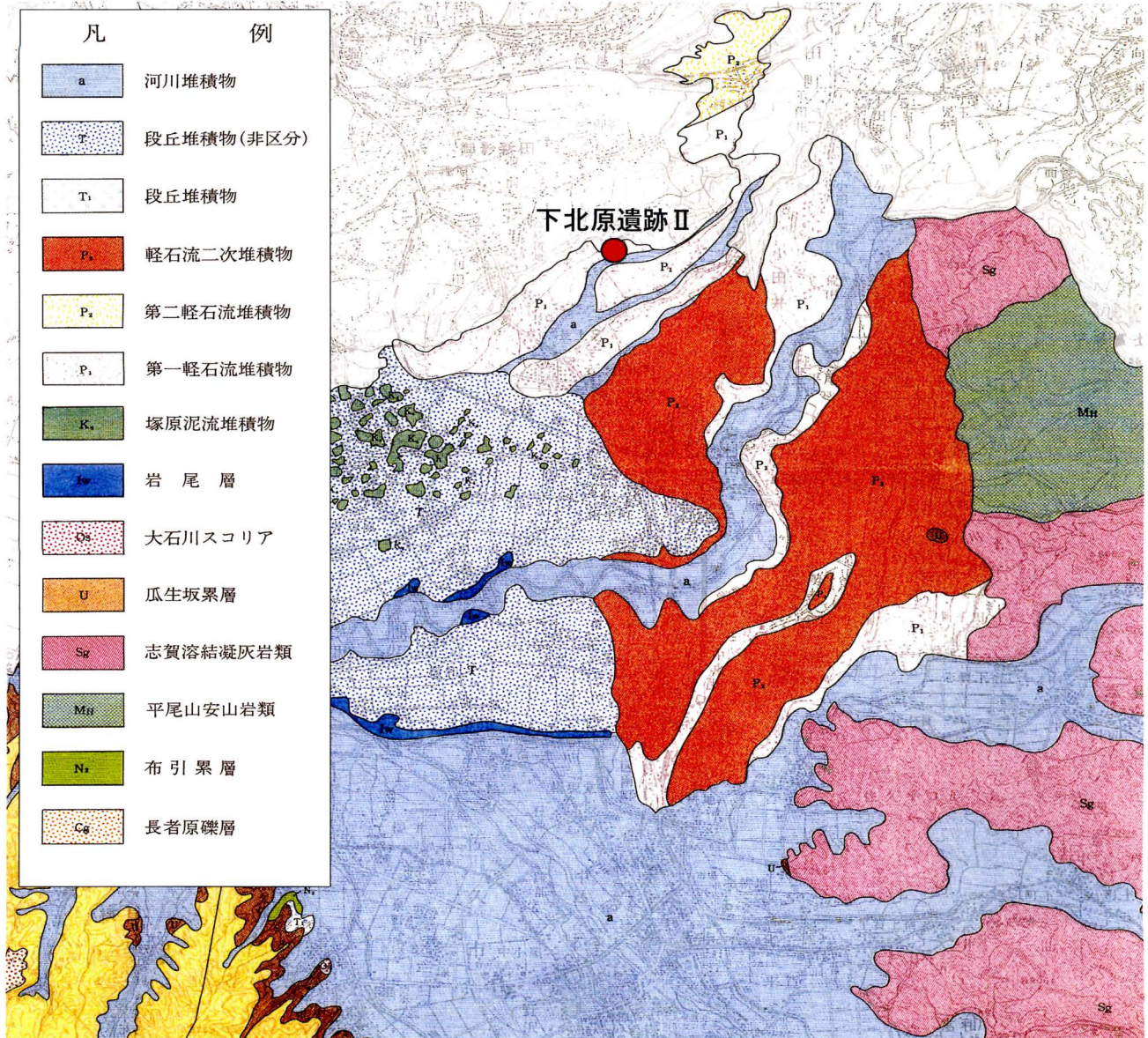


佐久平北部地域航空写真（南から）



後野沢付近から流れを北西に変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間山の麓に源を発す湯川、関東山地からの支流を集めた滑津川といった河川と合流し、蛇行しながら上田、長野方面に貫流する。この山地に囲まれ、水にも恵まれた盆地状の佐久平は、地質学的に見ると大きく二分することができる。志賀川と滑津川が合流し、さらに千曲川と川筋を一つにする東西線を境として、河川の北側段丘上と南側では20m前後の比高差が認められる。この北部地域は北方の浅間山麓部の緩やかな台地で、浅間山の噴出物である火砕流軽石流と降下火山灰が厚く堆積し、雨水による浸食によって、浅間山の麓から放射状に幾筋もの浸食谷（田切り地形）を形成している。

これに対し南部地域は千曲川の氾濫源沖積地と滑津川の谷口扇状地等で、河床礫層と沖積粘土層地帯が主となり地下水位も高く、地盤の安定した土地である。このため南部一帯は広く水田として利用されていた。



佐久市地質図（佐久市志自然編から）

ここで、下北原遺跡IIが所在する佐久市北部地域における環境の成り立ちを若干述べてみたい。地質構成の基本となっている浅間山は黒班山・前掛山・中央釜山の三重式成層火山で標高は2,568mを測り、現在も数年ごとに小規模な噴火をくり返している。近年で記憶に残る噴火は、平成16年（2004）に中規模噴火が発生し、空高く立ち上る黒煙と共に周辺地域に火山灰を降らしている。

浅間山の歴史をみると、噴火口の東に位置する黒班山は、最盛期には、現在の浅間山をしのぐ標

高2,800mを測る大型の成層火山であった。しかし、東側半分以上を失う大爆発によって、その姿を失ってしまった。このとき、大量の土砂が西側を除く周辺地域に流れ出している（塚原泥流）。黒班山の南方には特に多くの土砂が流れ落ち、佐久地域では塚原・赤岩・平塚地域周辺まで到達し、地表は凹凸の激しい地形へ変貌したと推察される。

黒班山が崩壊した後、現在の浅間山の姿に成長する過程で多量の噴出物によって佐久市北部地域は埋め尽くされ、その厚さは20～30mに達している。少なくとも2度に渡り軽石流が堆積したと考えられ、第1、第2軽石流（P1、P2）と呼ばれている。これが泥流によって形成された凹凸面を平坦化し、新たな生活面をつくり出した。泥流の先端地域にあたる塚原・赤岩・平塚一帯には泥流の名残を現在も見ることができ、周辺で点々と存在する小高い墳丘は、泥流の最も高い部分が軽石流に覆われることなく残った残丘である。古墳時代には、古墳の土台として多く利用され、一帯ではいくつもの古墳群が形成されている。

この軽石流によって平坦化された広大な台地は、雨水等の浸食に弱く、長い年月によって深く削り取られ、いくつもの細長い台地に変貌させた。これを田切り地形と呼んでいる。佐久市北部地域の遺跡分布状況を見ると、この浅間山の麓から緩やかに傾斜する細長い台地上に多くの遺跡が所在している。

今回、調査対象となった周防畑遺跡群下北原遺跡Ⅱは、浸食谷（田切り地形）に挟まれた南北方向に細長い台地北西端の標高737.5m内外に位置している。

## 第2節 歴史的環境

旧石器時代－周辺地域において確認された遺跡は認められない。市内では、佐久平周辺の丘陵地帯において遺跡が発見されている。東方の香坂川流域に展開する八風山遺跡Ⅱから始良Tn火山灰（AT）・八ヶ岳4テフラ降灰以前の石器群が、八風山遺跡ⅣA～C地点では、付近で産出するガラス質安山岩を使用しての石槍製作跡が、発見されている。また、南部の蓼科山麓に所在する、立科F遺跡においても始良Tn火山灰（AT）降灰以前の石器群が発見されている。

縄文時代－周防畑遺跡群内では、南西方向の台地先端付近で行われた道路改良に伴う調査から後期の遺物が出土し、近隣では浸食谷を隔てた南に位置する芝宮遺跡群から土器片が出土しているが、発見される遺構・遺物は僅かである。比較的まとまった遺構・遺物が発見されているのは、北西の浸食谷を隔てた台地上に所在する西近津遺跡群である。集合住宅建築に伴う西近津遺跡Ⅷ（8）からは、中期末～後期の土坑と遺物が確認され、中でも後期堀之内式深鉢・土偶・石棒・石剣は、状態も良好で貴重な資料である。また、道路改良工事に伴う西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ（9）の調査からも中期後半～後期の土坑、遺物が発見されている。西近津遺跡群周辺では一定の遺構・遺物は認められるが、住居址は未だ発見されず、集落が形成された形跡は今のところ確認されていないのが現状である。佐久市内において、集落が形成される地域は、いずれも佐久平周辺に張り出す丘陵地帯末端付近の台地上及び丘陵地を背負った河岸段丘上から発見される傾向が認められる。周防畑遺跡のような平坦地では、発見される遺構が土坑・陥穴といった遺構に限定されることから、本格的な集落は形成されず、狩り場的な使用がされていたと推察される。

弥生時代－前期は近年発掘調査例は確認され始めているが、佐久市全域をみても数は少ない。代表的な遺跡は、南東方向の湯川右岸に下信濃石遺跡（57）が所在する。この時期としては比較的まとまった遺物が出土し、土器底部2点の放射性炭素年代測定では2,400±30、2,440±30という年代が得られている。佐久市内では中期後半から河川沿い及び低地周辺の微高地上に大規模な集落が形成され始めるが、周防畑遺跡群内では本格的に集落が増加するのは後期になってからのようである。南西方向の微高地先端付近で道路改良に伴い行われた若宮遺跡Ⅳ（13）、道常遺跡（13）、南近津遺跡Ⅲ（13）、宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ（13）の調査では後期の遺構・遺物が多数発見されている。また、高速道路建設に伴い西近津遺跡群内で行われた発掘調査では、長辺18mを測る後期の大型住居址が発見され、注目された。中期後半の遺跡は、やや南方の湯川沿岸地域に沿って形成されたようで、右岸の北西の久保遺跡（48）、西一本柳遺跡（49）、左岸の根々井芝宮遺跡等、多くの遺跡が存在する。

古墳時代－まず集落だが、前期は、弥生時代中期後半から急激に遺跡数が増加したにもかかわらず、発見される遺跡数が激減し、発見される集落は小規模である。本遺跡で発見された住居址1軒は、この時期と考えられる。周辺では南西の浸食谷を隔てた北近津遺跡Ⅱ（10）からS字状口縁を持つ甕を伴う弥生時代末～古墳時代初頭の住居址が数軒発見されている。また、県埋蔵文化財センター

が中部横断道建設に伴い実施した近津遺跡群内からは、前期前半の住居址等が比較的まとまって発見されている。遺跡数が増加するのはカマドが住居内に導入され始める中期後半（5世紀後半）になってからである。本遺跡群内では後期になり、南近津遺跡（13）、若宮遺跡（13）、宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ（13）等において遺構が多数発見されるようになる。

佐久市における古墳は、河川の段丘端部及び佐久平の周辺部からつき出した丘陵地の尾根上から緩やかな斜面上を中心に存在する。本遺跡群内では現在地下に埋もれた可能性はあるものの、地上での観察で古墳は確認されない。周辺の遺跡群では、やや離れるが、南西方向の千曲川左岸に広がる台地上に下大豆塚古墳群（39）、東池下古墳群（40）、大豆塚古墳群（41）、家地頭古墳群（42）、姫小石古墳群（43）、藤塚古墳群（44）等多くの古墳が所在する。これらの古墳群は、周辺地域に残存する浅間山（黒班山）の山体を吹き飛ばす噴火によって発生した泥流の残丘を利用して構築されているものが多い。調査例は、昭和50年には家地頭1号古墳の調査が行われ、破片資料ではあるが当時正式な発見としては初となる埴輪（円筒埴輪・形象埴輪）が出土し、注目された。昭和56年には家地頭古墳の北東に位置する下大豆塚1号・2号古墳の調査が行われた。1号墳は石室の一部を残す程度まで破壊が進んだ状態であった。2号墳は周辺地域特有の浅間の噴火によって形成された流山の残丘を利用して構築され、石室が一部露出し、天井石が崩落した状態であったが、1号墳に比べ良好な状態を示していた。平成3年には藤塚古墳4・7・8・9号墳の調査が行われ、石室内から金属製品（直刀・金環等）、玉類（水晶製切子玉・丸玉等）が出土した。

また、浅間山の麓に源を発する湯川の段丘端部及び東方の丘陵斜面地にも古墳が認められ、横根古墳群、蛇塚古墳群（59）、北西の久保古墳群（48）等が所在する。

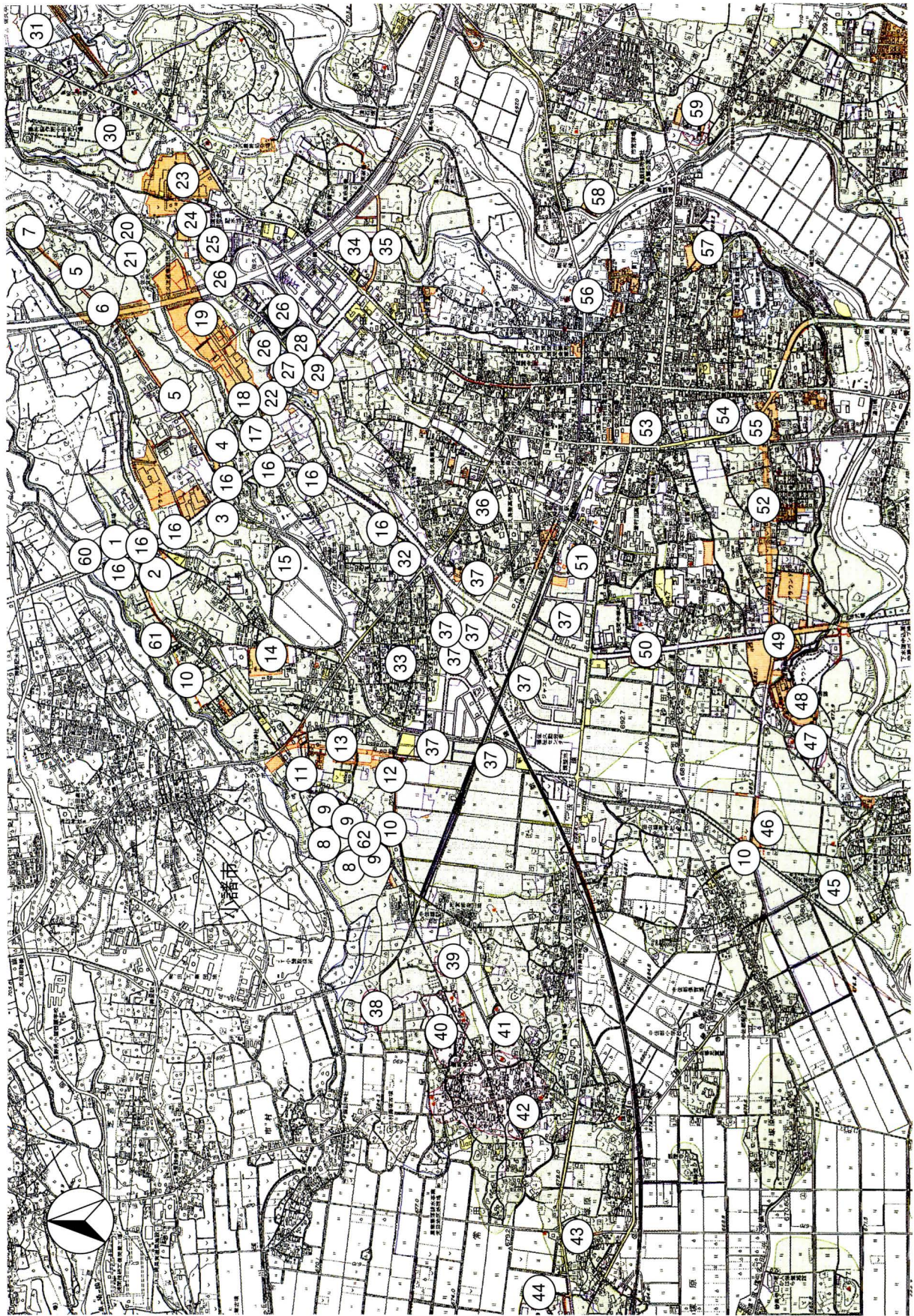
奈良・平安時代－周防畑遺跡群内では、下北原遺跡Ⅱから若干距離を置いた南西方向に広がる弥生～古墳時代の遺跡が密集する微高地上に集落が展開する。道路改良及び区画整理事業に伴い調査を実施した若宮遺跡・道常遺跡・南近津遺跡・宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ、大豆田遺跡Ⅰ・Ⅱ、工場建設に伴い行われた南近津遺跡（11）から多くの遺構・遺物が発見されている。奈良時代の住居址は比較的掘り込みが深く、形態も整った方形を示す。支柱穴は4本を基本とし、明確な掘り込みが多い。平安時代の前半期は、奈良時代同様の規模を示すが、後半期は全体に規模の縮小が認められる。カマドの設置箇所も、北壁あるいは東壁中央付近が主体であったが、平安末には南東隅に移り、出土する遺物量も減少する。

No.	遺跡名	所在地	縄	弥	古	歴	中	近	備考
1	下北原遺跡Ⅱ		○		○				今回調査
2	下宮原遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂	○			○			H19・20年度調査 佐久市第163集
3	上高山遺跡Ⅱ	長土呂字上高山				○			H3年度調査 佐久市第13集
4	南上中原・南下中原遺跡	長土呂南上中原他			○	○			S63年度調査 佐久市第23集
5	上芝宮遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅵ	長土呂			○	○			H6・7・9年度調査 佐久市第88集
	下曾根遺跡Ⅱ～Ⅶ	小田井			○	○			H6～11年度調査 佐久市第88集
6	芝宮遺跡	長土呂北下中原他			○	○			H4～6年度調査 県埋蔵文化財センター第39集
7	下曾根遺跡Ⅷ	小田井字穴沢			○	○	○		H15・16年度調査 佐久市第133集
8	西近津遺跡Ⅷ・Ⅸ	長土呂	○	○	○	○			H22・23年度調査 佐久市第207集
9	西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	長土呂	○	○	○	○			H18～20年度調査 佐久市第208集
10	北近津遺跡Ⅱ	長土呂			○				H18年度調査 佐久市第165集
	大豆田遺跡Ⅲ	長土呂			○	○			
	西一里塚遺跡Ⅲ	平塚字屋敷前		○					
11	南近津遺跡Ⅱ	長土呂字南近津	○	○	○				H21年度調査 佐久市第177集
12	大豆田遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂	○	○	○				H17・18年度調査 佐久市第156集
13	若宮遺跡Ⅳ	長土呂							H21・22年度調査 佐久市第198集
	道常遺跡			○	○	○	○		
	南近津遺跡Ⅲ								
	宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ								
14	南下北原遺跡	長土呂字南下北原				○			H21年度調査 佐久市第193集
15	高山遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂字下高山				○			H5・7年度調査 佐久市第69集
16	上宮原遺跡	長土呂字上宮原					○		
	下北原遺跡	長土呂字下北原							H1年度調査 佐久市第9集
	上高山遺跡	長土呂字上高山			○				H1年度調査 佐久市第9集
	下芝宮遺跡Ⅰ～Ⅳ	長土呂字下芝宮他			○	○			S62・63・H2年度調査 佐久市第9集
	上大林遺跡	長土呂字上大林他			○	○	○		S63年度調査 佐久市第9集
	下聖端遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂字下聖端他			○	○			H1・2年度調査 佐久市第9集
	下蟹沢遺跡	長土呂字下蟹沢							H1年度調査 佐久市第9集
17	上聖端遺跡Ⅱ	長土呂					○		H23年度調査 佐久市第211集
18	上聖端遺跡Ⅰ	長土呂	○		○	○			S63年度調査 佐久市第24集
19	聖原遺跡	長土呂字聖原			○	○	○		H1～7年度調査 佐久市第103・107・115・122・126集
20	聖原遺跡Ⅱ	長土呂字聖原			○	○			H1年度調査 佐久市第10集

周辺遺跡表（1）

No.	遺跡名	所在地	縄	弥	古	歴	中	近	備考	
21	聖原遺跡Ⅶ	長土呂字聖原			○	○			H5 年度調査 佐久市第 33 集	
22	聖原遺跡Ⅷ	長土呂字上聖端他							H7 年度調査 佐久市第 56 集	
23	前藤部遺跡					○	○		H8・9 年度調査 佐久市第 68 集	
24	上曾根遺跡				○	○			H2 年度調査 佐久市第 6 集	
25	西曾根遺跡Ⅰ				○	○			H1～4 年度調査 佐久市 18 集	
26	曾根新城遺跡Ⅰ～Ⅳ・Ⅵ	長土呂字新城他				○				
	上久保田向遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ～Ⅶ	岩村田字上久保田向			○	○			H1～6 年度調査 佐久市第 41 集	
	西曾根遺跡Ⅱ・Ⅲ	岩村田字西曾根		○	○	○				
27	曾根新城遺跡Ⅴ	長土呂字曾根新城	○			○			H5 年度調査 佐久市第 28 集	
28	上久保田向遺跡Ⅳ	岩村田字上久保田向	○			○			H4 年度調査 佐久市第 25 集	
29	上久保田向遺跡Ⅲ	岩村田字上久保田向				○			H4 年度調査 佐久市第 27 集	
30	下金井遺跡	小田井字下金井				○			H24 年度調査 佐久市第 210 集	
31	金井城跡	小田井字下金井					○		S63・H1 年度調査 佐久市第 1 集	
32	聖石遺跡	長土呂字聖石			○				H13 年度調査 佐久市第 94 集	
33	長土呂館跡	長土呂字城					○			
34	西赤座遺跡	岩村田字西赤座					○		H14 年度調査 佐久市第 112 集	
35	赤座垣外遺跡	岩村田字赤座垣外					○	○	H2 年度調査 佐久市第 11 集	
36	上直路遺跡	岩村田字上直路				○			S60 年度調査 佐久市年報 6	
	上村遺跡	長土呂字上村			○		○	○	H7 年度調査 佐久市第 110 集	
37	上前田遺跡	長土呂字上前田			○			○	H8 年度調査 佐久市第 110 集	
	永存遺跡	岩村田字永存						○	H10 年度調査 佐久市第 110 集	
	下伯母塚遺跡	長土呂字下伯母塚			○				H9 年度調査 佐久市第 110 集	
	直路遺跡Ⅰ～Ⅲ	長土呂字直路			○				H9～11 年度調査 佐久市第 110 集	
	清水田遺跡Ⅱ	岩村田字清水田			○				H10 年度調査 佐久市第 110 集	
	辻の前遺跡	長土呂字辻の前			○	○			H11 年度調査 佐久市第 110 集	
	中仲田遺跡	長土呂字仲田					○		H11 年度調査 佐久市第 110 集	
	鷲林古墳	長土呂字鷲林					○			
38	下大豆塚 1 号・2 号古墳	長土呂			○				S56 年度調査 佐久市「下大豆塚 1 号・2 号古墳」	
40	東池下古墳群				○					
41	大豆塚古墳群				○					
42	家地頭 1 号古墳	常田字家地頭			○				S50 年度調査 佐久市「家地頭第 1 号古墳発掘調査報告書」	
43	姫小石古墳群				○					
44	藤塚古墳群・藤塚遺跡Ⅱ	塚原字藤塚他				○			H3・4 年度調査 佐久市第 26 集	
45	根々井大塚古墳	根々井字大塚				○			H9 年度調査 佐久市年報 9	
46	西一里塚遺跡	岩村田字西一里塚		○	○	○			S48 年度調査 「西一里塚遺跡発掘調査概報」	
47	五里田遺跡	根々井字五里田	○	○	○				H9 年度調査 佐久市第 74 集	
48	北西の久保遺跡・古墳群	岩村田字北西ノ久保		○	○	○	○		S57～59 年度調査 佐久市「北西の久保」	
49	西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ	岩村田字西一本柳			○	○			H8 年度調査 佐久市第 73 集	
	西一本柳遺跡Ⅴ・Ⅵ	岩村田字上樋田			○	○	○		H11～13 年度調査 佐久市第 91 集	
	西一本柳遺跡Ⅶ	岩村田字西一本柳			○	○	○		H10 年度調査 佐久市年報 8	
	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村田字下樋田			○	○	○		H12～14 年度調査 佐久市第 109 集	
	西一本柳遺跡Ⅸ	岩村田字西一本柳			○	○	○		H14 年度調査 佐久市第 113 集	
	西一本柳遺跡Ⅹ	岩村田字西一本柳			○	○	○		H15 年度調査 佐久市年報 14	
	西一本柳遺跡ⅩⅠ	岩村田字下樋田			○				H15 年度調査 佐久市年報 13	
	西一本柳遺跡ⅩⅡ	岩村田字下樋田			○	○	○		H16 年度調査 佐久市第 125 集	
	西一本柳遺跡ⅩⅢ	岩村田字下樋田			○	○	○		H17 年度調査 佐久市第 139 集	
	西一本柳遺跡ⅩⅣ	岩村田字上樋田			○	○	○	○	H18・19 年度調査 佐久市第 175 集	
50	西一本柳遺跡ⅩⅤ	岩村田字常木上			○	○	○		H19 年度調査 佐久市第 154 集	
	西一本柳遺跡ⅩⅥ	岩村田字西一本柳			○	○	○		H20 年度調査 佐久市第 160 集	
	西一本柳遺跡ⅩⅦ	岩村田字西一本柳			○	○	○		H20 年度調査 佐久市第 169 集	
	松の木遺跡Ⅰ・Ⅱ	岩村田字松の木			○	○			H8・9 年度調査 佐久市第 91 集	
	51	円正坊遺跡Ⅱ				○	○	○		H8 年度調査 佐久市第 53 集
		円正坊遺跡Ⅳ	岩村田円正坊			○	○	○		H11～13 年度調査 佐久市第 102 集
		円正坊遺跡Ⅵ				○	○	○		H14 年度調査 佐久市年報 15
		円正坊遺跡Ⅷ				○	○	○		H21 年度調査 佐久市第 185 集
52	北一本柳遺跡Ⅱ	岩村田字北一本柳			○				H15 年度調査 佐久市年報 14	
	北一本柳遺跡Ⅲ	岩村田字北一本柳			○	○	○		H18～21 年度調査 佐久市第 175 集	
	北一本柳遺跡Ⅳ	岩村田字北一本柳			○		○		H19 年度調査 佐久市第 158 集	
53	柳堂遺跡	岩村田字柳堂			○		○		H10 年度調査 佐久市第 85 集	
54	観音堂遺跡	岩村田字観音堂					○		H9 年度調査 佐久市第 70 集	
55	東大門先遺跡Ⅱ	岩村田字東大門先			○	○	○		H18・19・21 年度調査 佐久市第 175 集	
56	大井城跡	岩村田字古城			○	○		○	S59～61 年度調査 佐久市「大井城跡」	
57	下信濃石遺跡	岩村田字仁王前			○		○		H16 年度調査 佐久市第 134 集	
58	下小平遺跡	岩村田字下小平			○	○			S55 年度調査 佐久市「下小平遺跡」	
59	蛇塚古墳	安原字蛇塚				○			H6・8 年度調査 佐久市第 78 集	
60	鎌田原遺跡	小諸市御影新田字鎌田原				○	○		県埋蔵文化財センター第 103 集	
61	近津遺跡群	長土呂				○	○		県埋蔵文化財センター第 103 集	
62	西近津遺跡群	長土呂			○	○	○			

周辺遺跡表 (2)



周辺遺跡位置図

周辺の浸食谷を隔てた芝宮遺跡群、長土呂遺跡群、西近津遺跡群等の発掘調査例からも、この時代、集落の形成が見受けられる。周防畑遺跡群・長土呂遺跡群などの遺跡周辺は、延喜式に記されている佐久郡8郷の一つである大井郷の比定地と推定され、発掘調査によって「大井」と記された墨書・刻書土器が発見されている。さらに、佐久市内において古瓦が出土する数少ない地域として以前から周知されており、周辺地域からは平瓦・丸瓦に加え、工場造成地の残土及び小学校建築に伴う調査等によって7世紀末と考えられる川原寺式軒丸瓦が発見されている。瓦を葺いた寺院など公的な建造物の存在が窺われる。また、付近は古東山道が通過していたと推定されており、さらに、長土呂遺跡群周辺に佐久郡衙が所在していた可能性も考えられていることから、周防畑遺跡群を含めた一帯に安定した集落が形成された要因になったと考えられる。

中世・近世－中世では、調査区南西の遺跡が密集する地域に所在する道常遺跡(13)から15～16世紀と考えられる竪穴状遺構、土坑、井戸址等の遺構が発見され、南方の濁川左岸に長土呂館跡が所在する。長土呂館を構えた人物の断定はできないが、佐久市志には「鎌倉時代に北条氏に近い薩摩氏によって構築されたと考えるのが妥当であろう」と記されている。遺構は見た目上ほとんど現存しないが、東西120m、南北135m程度の範囲の外側に濠を巡らせ、内側に1.5m程度の土塁があったと推定されている。また、北東方向の湯川右岸断崖沿いに金井城(31)が存在する。発掘調査によって遺跡の詳細が広い範囲で確認されている佐久地域でも代表的な城郭である。城域は20万㎡を越える広さを持ち、築城は16世紀代と考えられている。発掘調査は、昭和63年～平成2年にかけて工場団地造成工事に伴い約80,000㎡の調査が実施された。二郭の一部、三郭、北郭の大部分、外郭の1/3以上の構造が明らかとなり、城内からは竪穴建物址、土坑、掘立柱建物址、堀・溝状遺構、土塁関連遺構が発見されている。さらに、金井城のやや下流である南北方向に細長い右岸段丘上には、大井氏の築城と考えられる大井城(56)(北から石並城・王城・黒岩城)が存在する。現在岩村田市街地となっている周辺地域一帯は城下町として栄えていたとされ、大井城(黒岩城)の発掘調査からはすり鉢、石臼などの遺物が多数出土している。しかし、戦国期に入ると、文明16年(1484)に村上氏の攻撃を受けるなど、幾度となく戦乱に巻き込まれ、衰退の一途をたどった。

この他にも、佐久市全域をみると多数の館跡、城跡が存在し、多くは、この地域特有の浅間山の麓から放射状に延びる浸食谷に分断された台地上及び佐久平に向かって周囲の山地から突き出た丘陵地の自然地形を利用して築城されている。

### 第3節 発見された遺構と遺物

遺 構 竪穴住居址－1軒(古墳時代前期) 土坑－8基(縄文時代後期他) ピット－146個  
 遺 物 縄文土器(深鉢) 土師器(鉢・高坏?) 石器(石鏃)

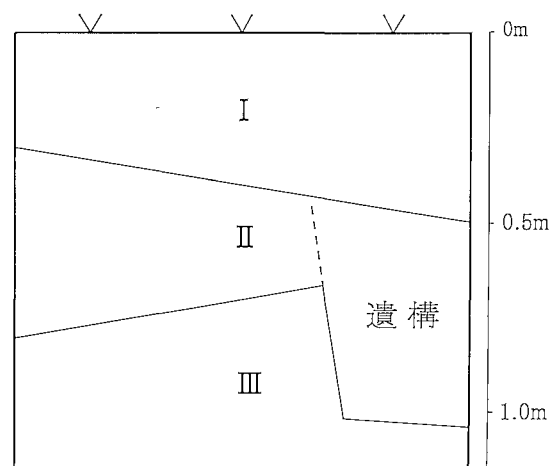
### 第4節 基本層序

遺跡は、浅間の麓から放射状に延びる浸食谷に挟まれた『田切り』地形の細長い台地北西端部に立地する。この付近は、現在の浅間山が形成される過程で噴出した軽石流が基盤となっており、この上面を現在の表土である耕作土が覆っている。今回、調査を実施した地域の基本層序は以下のとおりである。

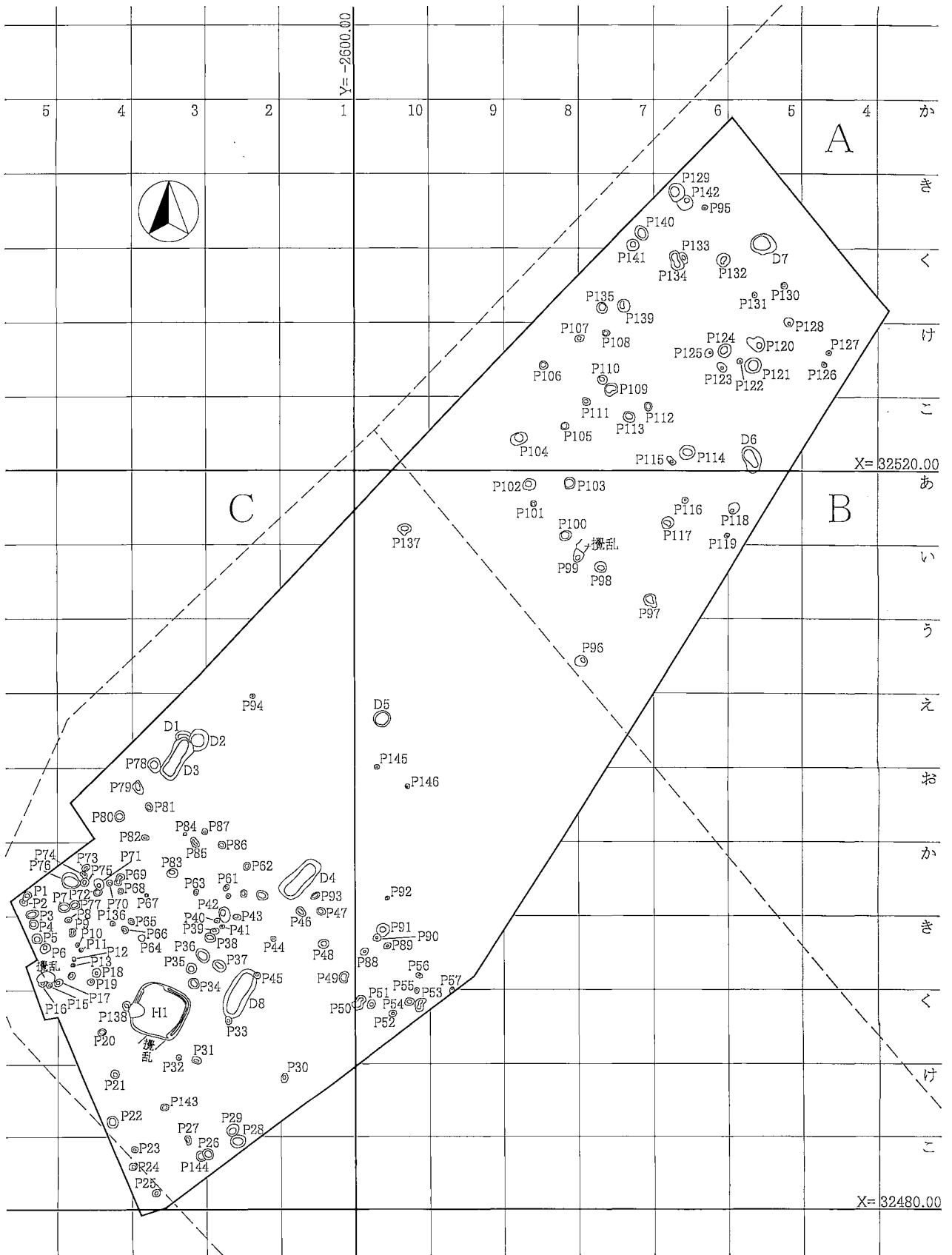
I層は層厚30～50cmを測る暗褐色土の耕作土である。

II層は層厚10～50cmを測る黒褐色土層で、地形が低くなる調査区南西側一帯に堆積が認められる。地形の高い調査区北東側にも存在していたと思われるが畑地造成段階で完全に削り取られた状況が認められる。遺構はII層から掘り込まれているが不鮮明である。

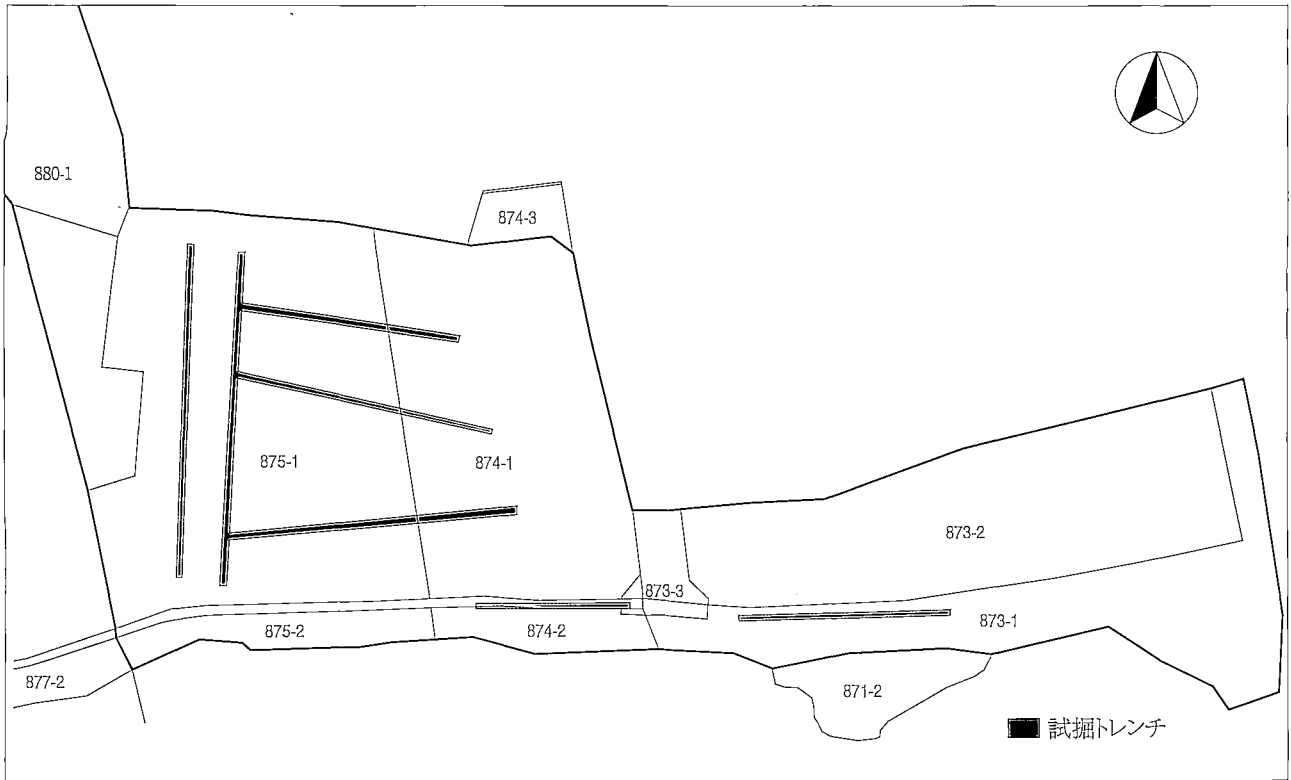
III層は浅間山の噴出物である第一軽石流の黄褐色ロームで、遺構の確認が明確にできる。調査区中央付近は、下層の白色及び淡い赤色ロームまで削り取られている。



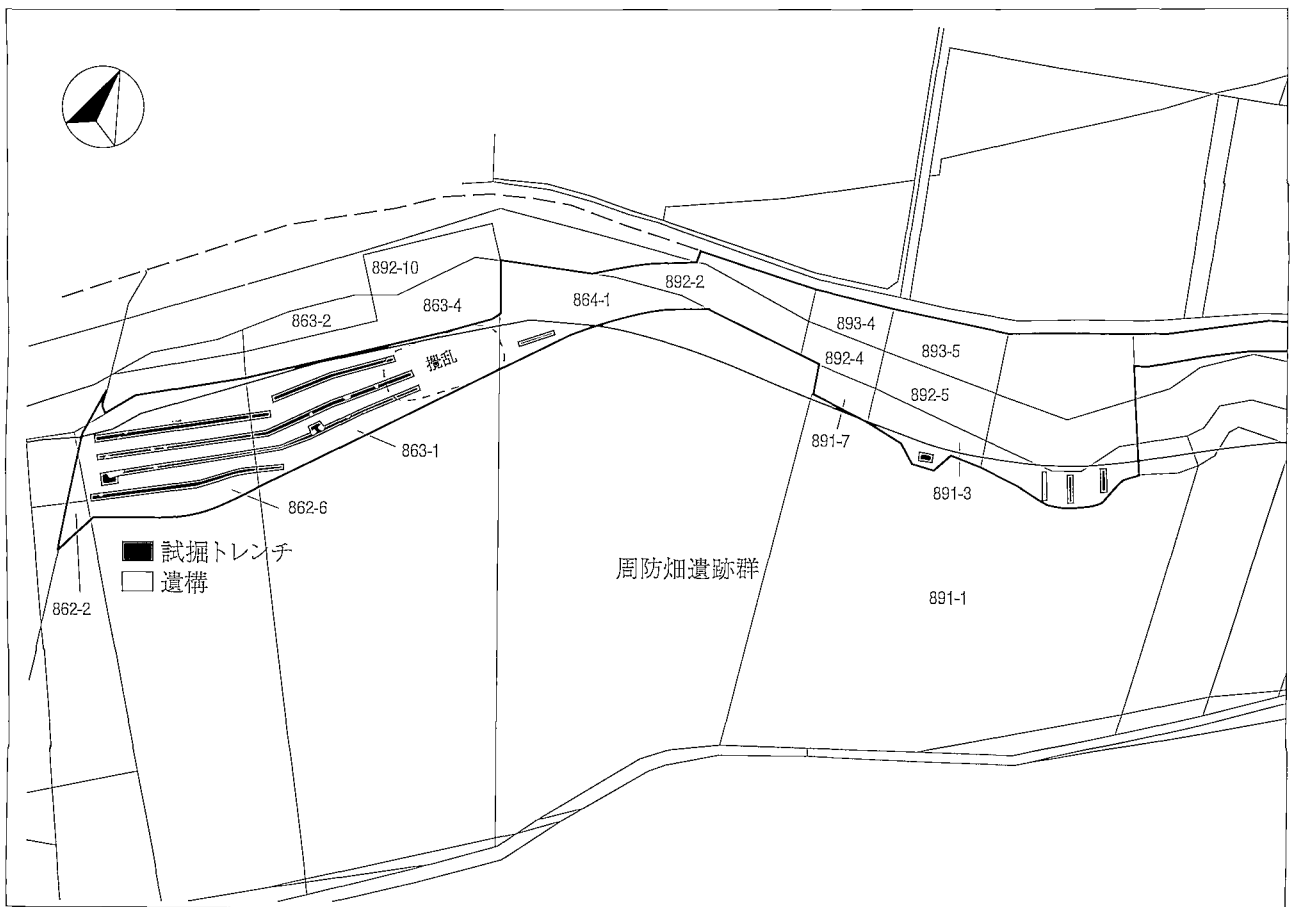
基本層序模式図



周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ遺構配置図 (1:300)



斎場施設予定地試掘調査図



進入道路及び代替地試掘調査図



### 第三章 遺構と遺物

#### 第1節 竪穴住居址（H）

##### H1号住居址

遺構はC-く-3グリッドに位置する。主軸はN20°Wである。

平面形態はやや隅の丸い方形である。

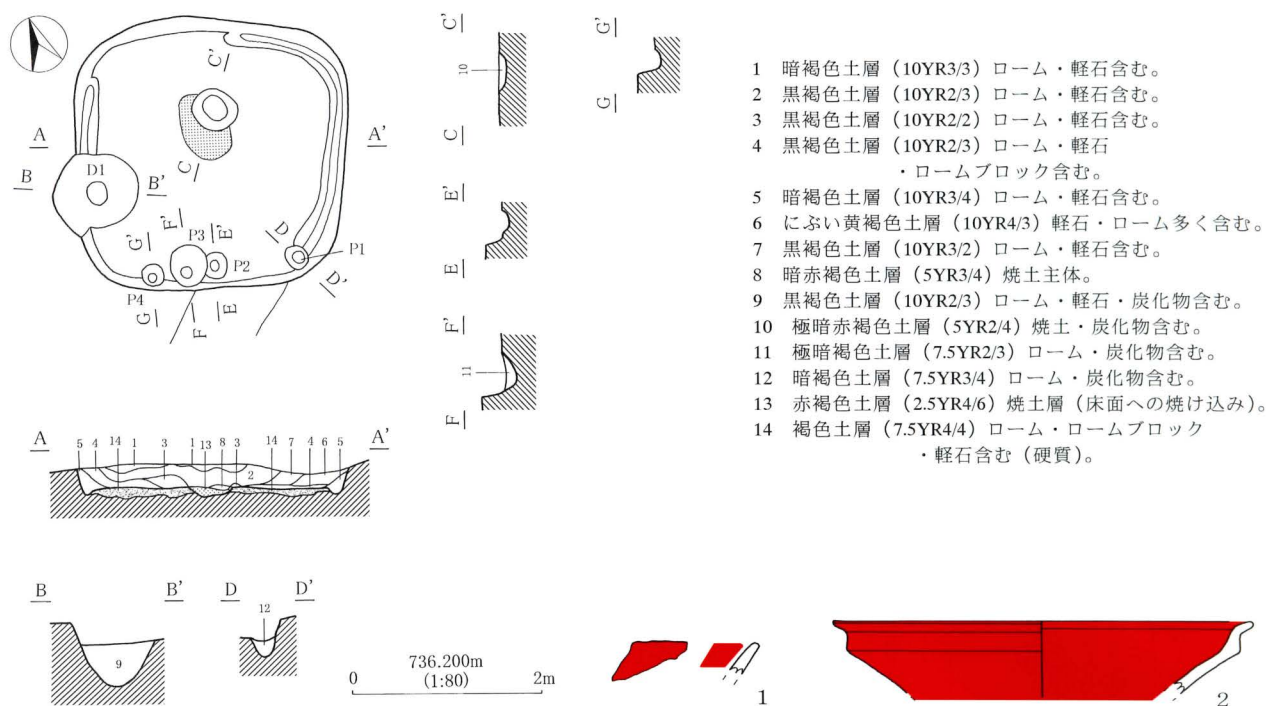
調査規模は長軸3.0m、短軸2.8mと小型で、検出面から床面までの深さは最深で30cmを測る。

覆土は暗褐色と黒褐色土主体で、周辺部から堆積した状況が認められることから自然堆積と考えられる。

構造上の特徴として、床は硬質面が存在するがやや凹凸感がある。壁際の一部に壁溝が認められた。主柱穴と断定できる明確なピットは存在しなかったが、南壁際に小ピットが存在した。入口に関係する可能性が窺える。床面中央のやや北寄りに径45cm、深さ8cmの炉が存在し、窪み及び炉の西から南側に接して床面が赤く焼けて硬質化していた。西壁には、僅かに壁から張りだす状態で掘り込まれた直径90cm、深さ50cmの円形を呈する土坑が存在する。掘方は厚さ5~8cmを測る硬質な層が認められた。

遺物は赤色塗彩の土師器高杯の坏部口縁と考えられる破片等が数片出土した。

本住居址の時期は、赤色塗彩された土器の形状及び住居址にカマドが認められず、炉が存在することから、古墳時代前期としたい。



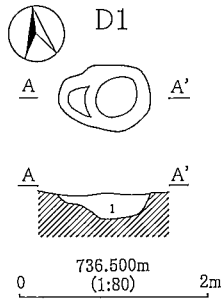
H1号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	鉢?	-	-	-	内外面赤色塗彩	口縁破片	外面 2.5Y7/2 灰黄色 断面実測
2	土師器	高杯?	[22]	-	(3.8)	内外面赤色塗彩	口縁破片	内外面 10R4/8 赤色 回転実測 IV区出土

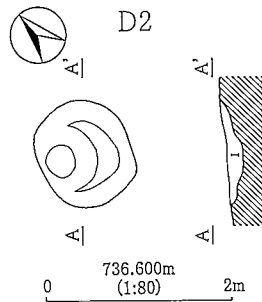
H1号住居址遺物表

#### 第2節 土坑（D）

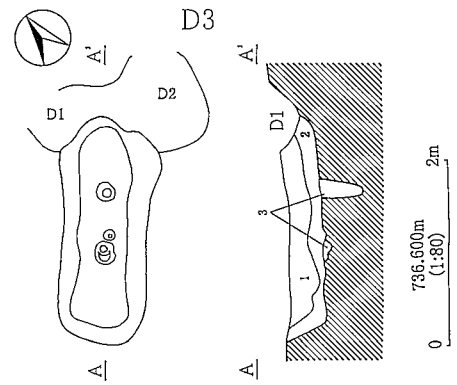
陥穴・貯蔵穴・ゴミ穴等と考えられる掘り込みである。ピットと区別するために、直径90cm以上2.5m未満の掘り込みを土坑として取り扱った。D5号土坑は縄文時代後期の土器が比較的まとまった状態で出土した。D3号土坑及びD4号土坑は掘り込みの形状及び底面に杭を差し込んだと思われる小ピットが存在すること、付近に縄文土器を出土したD5号土坑が存在することから縄文時代の陥穴と考えられる。



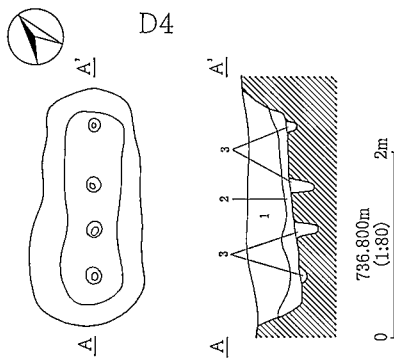
1 褐色土層 (10YR4/4) ローム多く、暗褐色土・軽石含む。



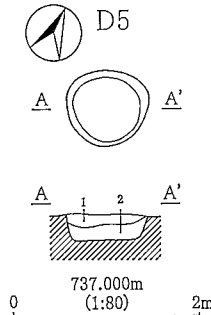
1 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・軽石含む。



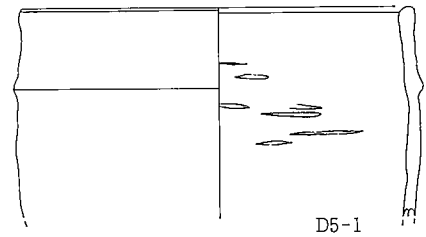
1 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム・軽石・炭化物・ロームブロック含む。  
2 褐色土層 (7.5YR4/4) ローム主体。軽石・暗褐色土含む。  
3 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・軽石含む。しまりなし。



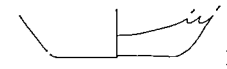
1 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム・軽石・炭化物・ロームブロック含む。  
2 褐色土層 (7.5YR4/4) ローム主体。軽石・暗褐色土含む。  
3 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・軽石含む。しまりなし。



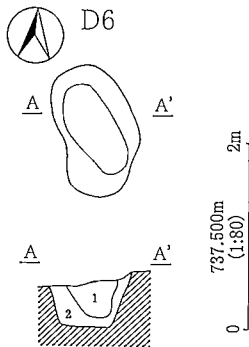
1 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム・軽石・炭化物含む。  
2 褐色土層 (10YR4/4) ローム・軽石・炭化物含む。



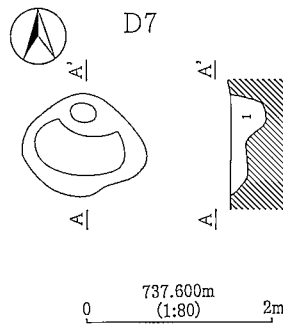
D5-1



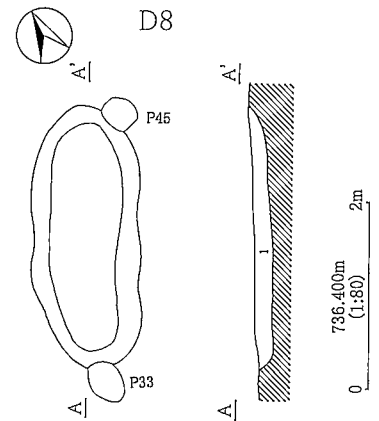
D5-2



1 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム・ロームブロック・軽石含む。  
2 にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) ローム主体。軽石・暗褐色土含む。



1 赤褐色土層 (5YR4/6) ローム・ロームブロック多く含む。



1 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム・軽石・炭化物・ロームブロック含む。

土坑遺構・遺物実測図

遺構名	形態	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	位置	備考
D1	楕円形	100	72	30	Cえ3	D3を切る
D2	円形	122	100	20	Cえ3	D3を切る
D3	(楕円形)	(244)	112	45	Cえ3	深さ最大44cmのピットあり D1・2に切られる
D4	楕円形	256	124	55	Cか1	深さ最大26cmのピットが4個あり
D5	円形	90	85	28	Bえ10	遺物-縄文土器片
D6	不整形	145	80	55	Aこ5	
D7	円形	135	110	40	Aき5	
D8	楕円形	(280)	110	20	Cく2	P33・45に切られる

土坑観察表

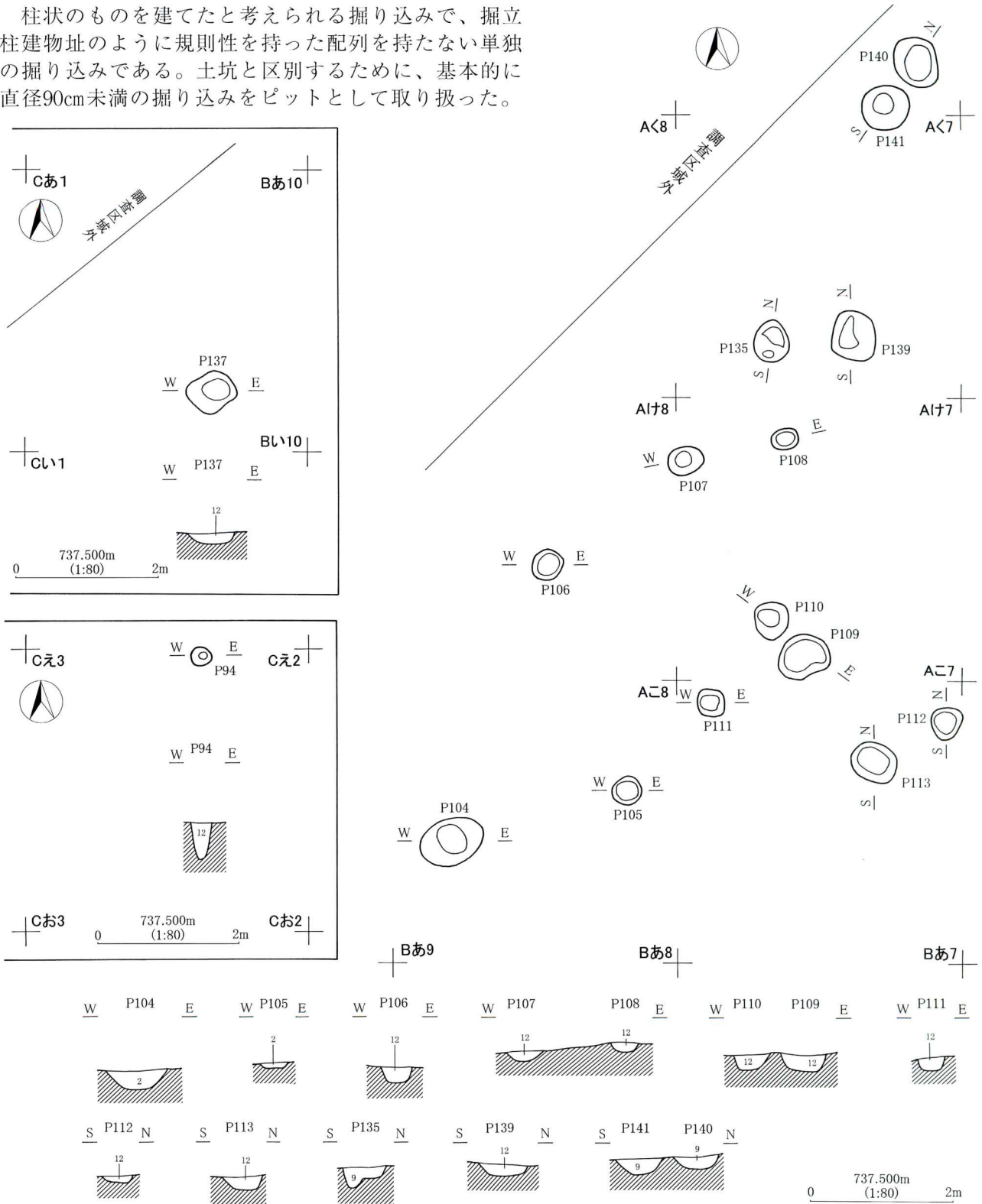
( )推定値 ( )残存値

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	縄文土器	深鉢	[21.3]	—	—	口縁横ナデ 横位隆帯 内面横ナデ	口縁~胴部破片	内外面 10YR7.6 明黄褐色 断面実測
2	縄文土器	深鉢	—	6.5	—	表面やや磨耗	底部破片	内外面 10R4.8 一部回転実測

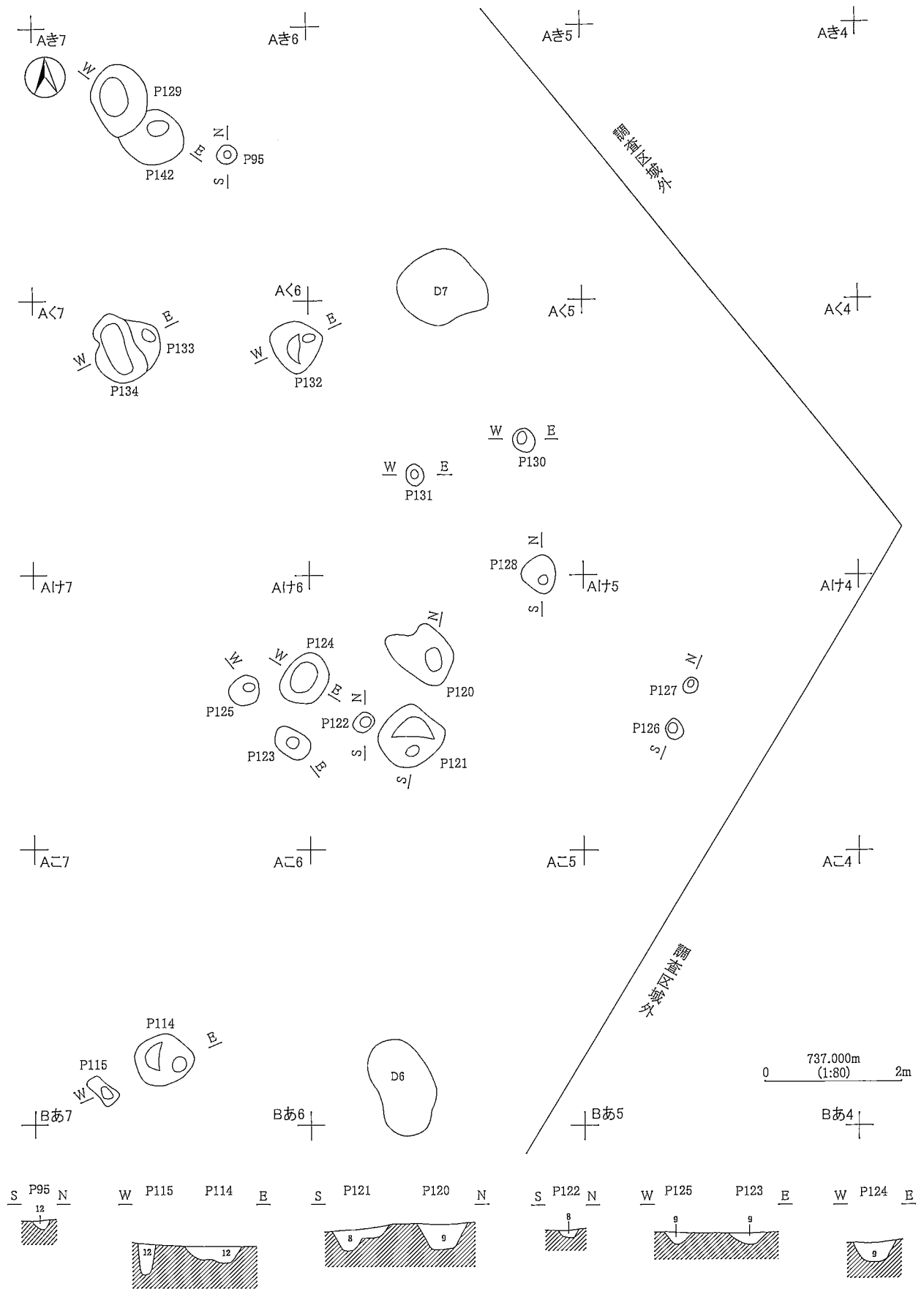
D5号土坑遺物観察表

### 第3節 ピット (P)

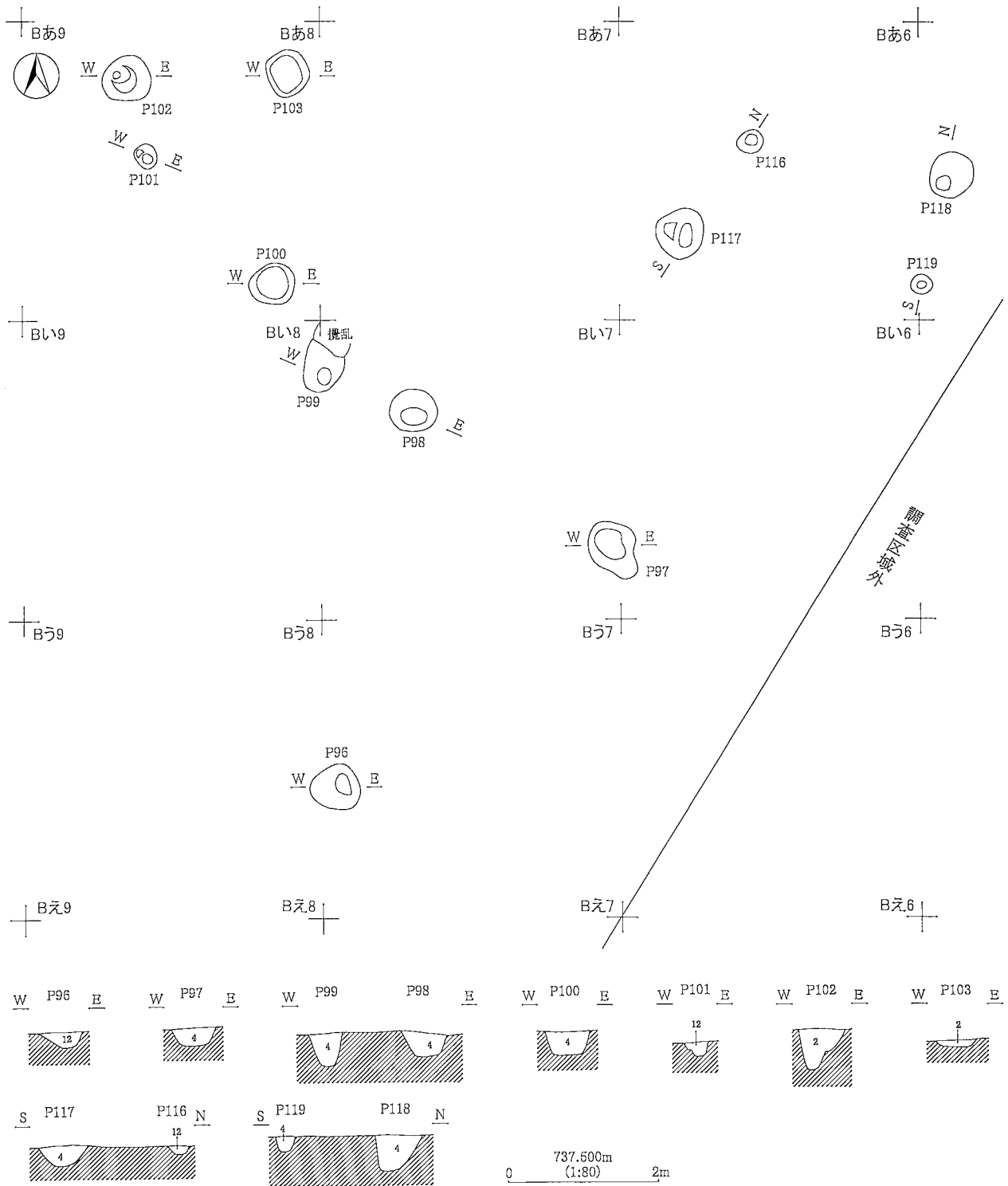
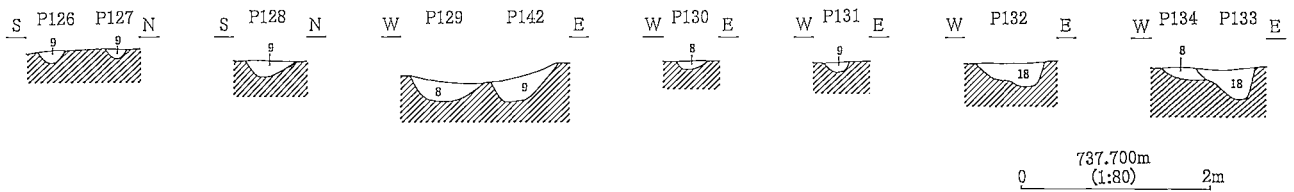
柱状のものを建てたと考えられる掘り込みで、掘立柱建物址のように規則性を持った配列を持たない単独の掘り込みである。土坑と区別するために、基本的に直径90cm未満の掘り込みをピットとして取り扱った。



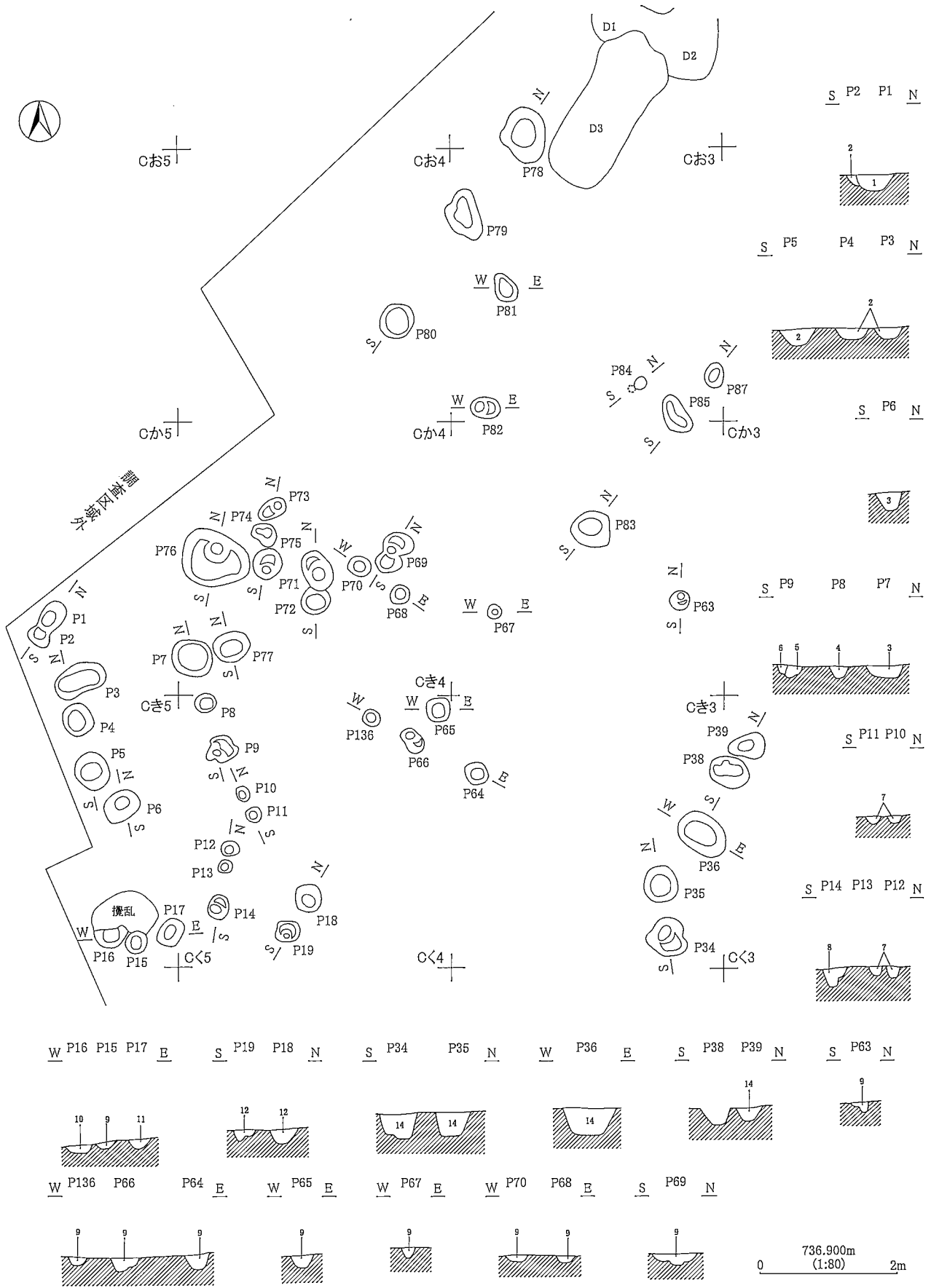
ピット実測図 (1)



ピット実測図 (2)

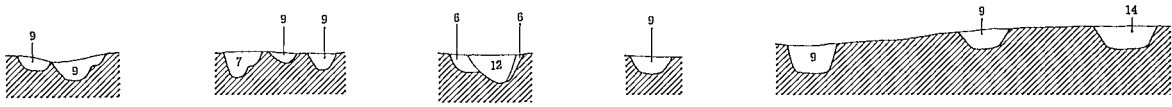


ピット実測図 (3)

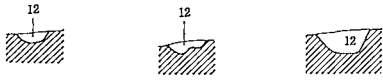


ピット実測図 (4)

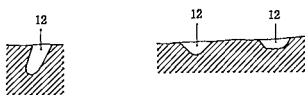
S P72 P71 N    S P75 P74 P73 N    S P76 N    S P77 N    S P80    P79    P78 N



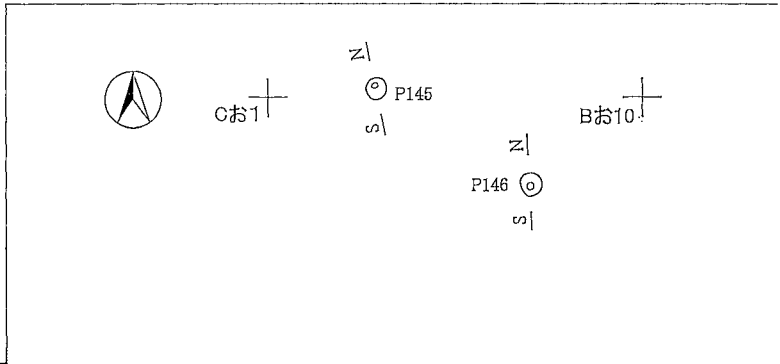
W P81 E    W P82 E    S P83 N



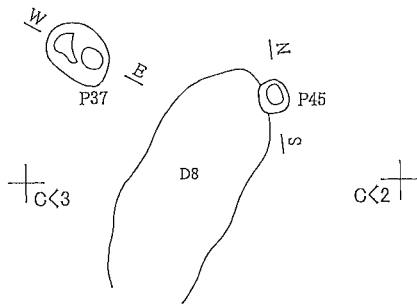
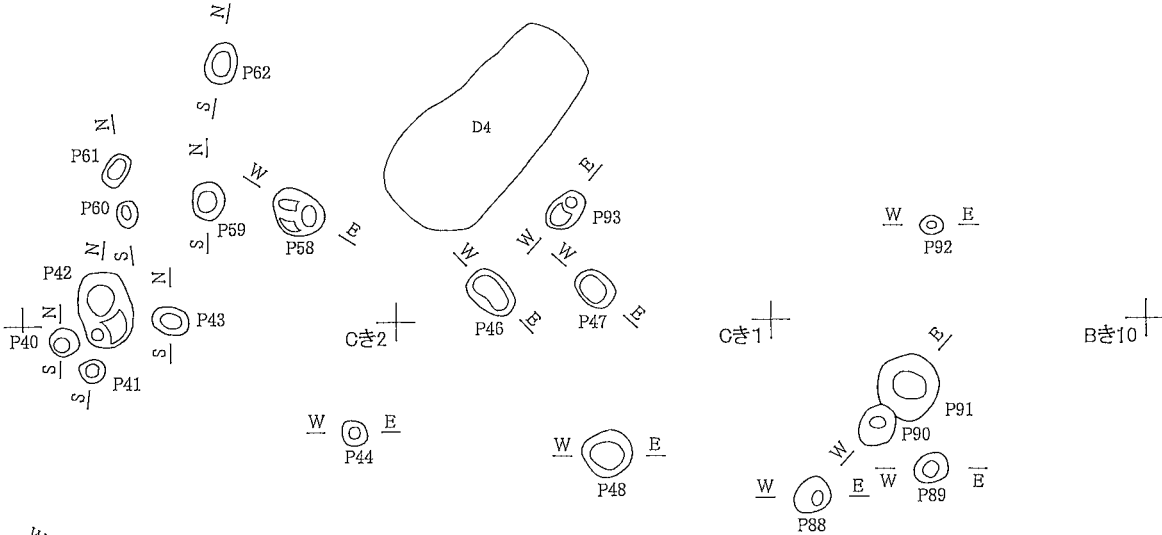
S P84 N    S P85 P87 N



736.900m  
(1:80) 2m



Cか3 P86    Cか2    Cか1    Bか10

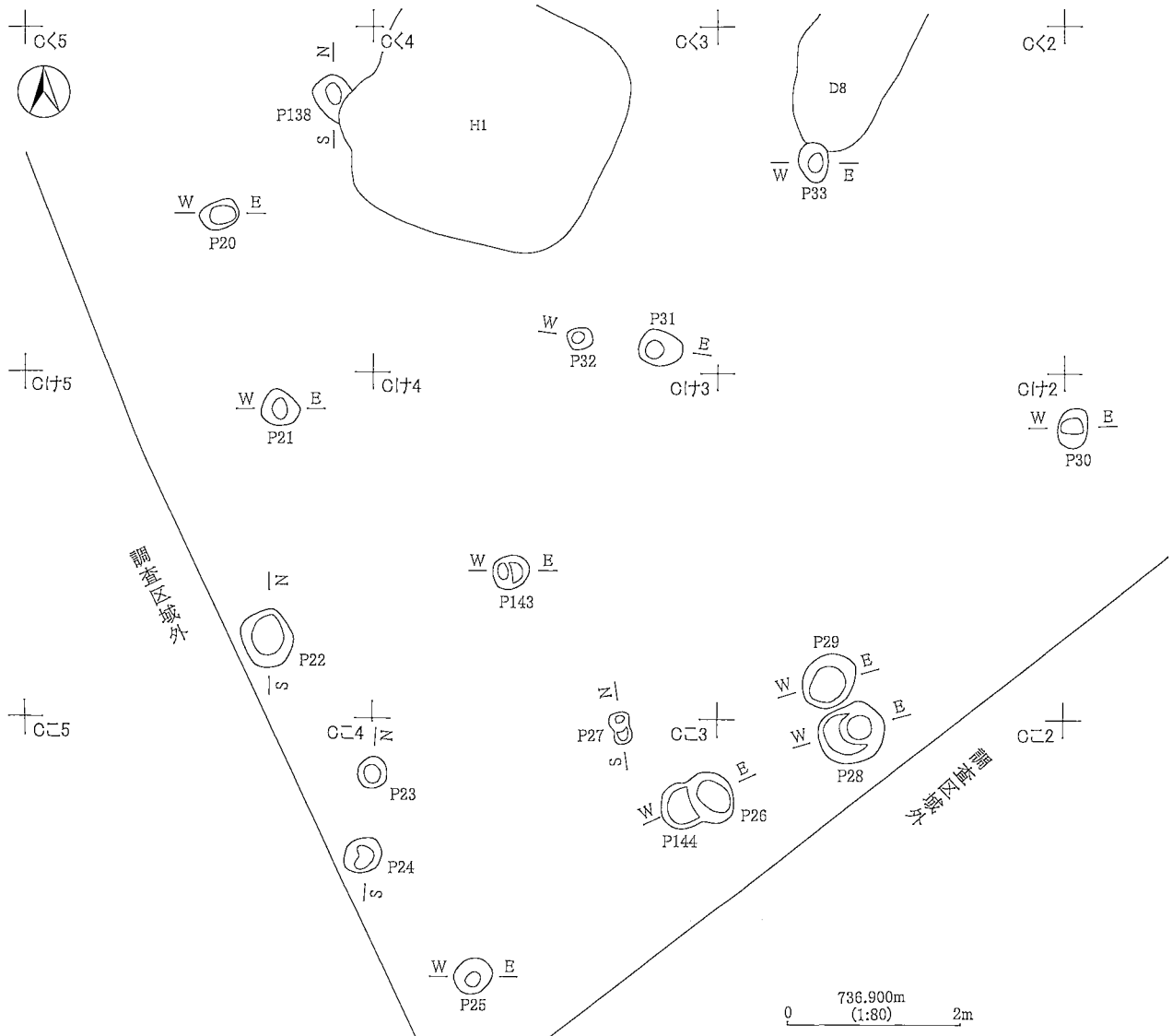
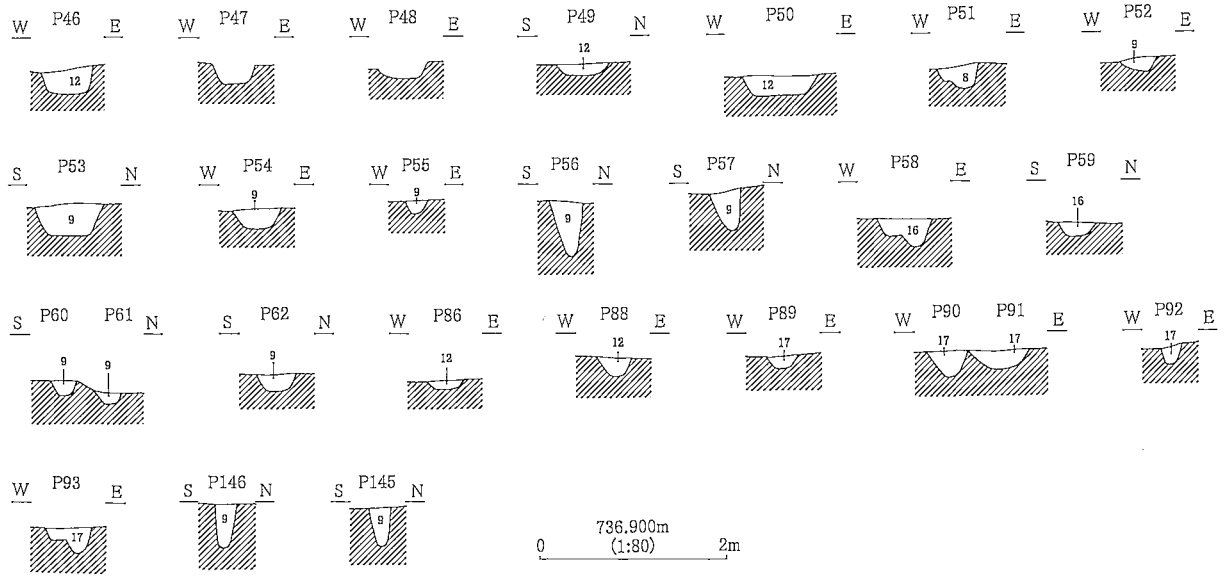


W P37 E    S P40 N    S P41 P42 N    S P43 N    W P44 E    S P45 N



736.900m  
(1:80) 2m

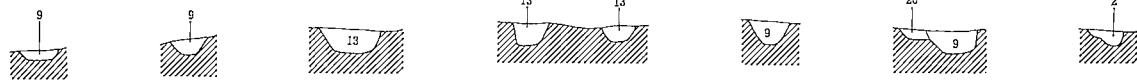
ピット実測図 (5)



ピット実測図 (6)



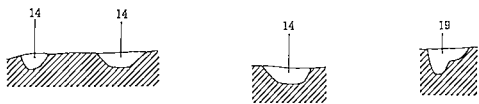
W P20 E    W P21 E    S P22 N    S P24 P23 N    W P25 E    W P144 P26 E    S P27 N



W P28 E    W P29 E    W P30 E    W P33 E



W P32 P31 E    S P138 N    W P143 E



0 736.900m (1:80) 2m

- 1 暗褐色土層 (10YR3/3) 軽石含む。
- 2 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームやや多く、軽石含む。

- 3 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームブロック・軽石含む。
- 4 暗褐色土層 (10YR3/4) ロームやや多く、ロームブロック含む。
- 5 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム含む。しまりなし。
- 6 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。
- 7 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・ロームブロック・軽石含む。
- 8 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム多く、軽石含む。
- 9 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・軽石含む。
- 10 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームブロックやや多く、軽石含む。
- 11 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム少量、軽石含む。
- 12 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム・軽石含む。
- 13 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム多量に含む。
- 14 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロック・軽石含む。
- 15 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム含む。
- 16 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム・軽石含む。
- 17 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・赤色ローム・軽石含む。
- 18 暗褐色土層 (10YR3/4) ロームブロック・軽石含む。
- 19 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム・軽石含む。
- 20 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・軽石やや多く含む。

ピット実測図 (7)

遺構名	形態	長さ (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	位置	備考	遺構名	形態	長さ (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	位置	備考
P1	楕円形	(48)	33	24	Cか5	切り合い-P2	P40	円形	33	32	22	Cき2	
P2	円形	36	(24)	16	Cか5	切り合い-P1	P41	円形	30	28	14	Cき2	
P3	楕円形	79	44	16	Cか5		P42	楕円形	82	58	23	Cき2	
P4	方形	48	44	17	Cき5		P43	楕円形	42	32	20	Cき2	
P5	円形	56	49	25	Cき5		P44	円形	28	28	15	Cき2	
P6	方形	55	41	28	Cき5		P45	方形	38	35	10	Cき2	D8を切る
P7	方形	60	54	18	Cか4		P46	楕円形	56	40	31	Cか1	
P8	円形	32	30	18	Cき4		P47	楕円形	46	36	20	Cか1	
P9	不整形	46	42	20	Cき4		P48	隅丸方形	56	54	15	Cき1	
P10	円形	25	21	12	Cき4		P49	不整形	62	47	14	Cき1	
P11	円形	26	26	13	Cき4		P50	不整形	80	52	22	B<10	
P12	方形	27	22	18	Cき4		P51	隅丸方形	52	44	26	B<10	
P13	方形	23	21	14	Cき4		P52	楕円形	42	32	16	B<10	
P14	楕円形	37	30	28	Cき4		P53	不整形	80	40	35	B<10	
P15	円形	(36)	35	12	Cき5	擾乱に切られる	P54	隅丸方形	48	40	20	B<10	
P16	円形	52	(30)	13	Cき5	擾乱に切られる	P55	円形	26	26	14	B<10	
P17	方形	43	36	16	Cき5		P56	楕円形	32	22	58	Bき10	
P18	方形	42	40	22	Cき4		P57	楕円形	36	22	42	B<9	
P19	方形	38	34	17	Cき4		P58	不整形	60	47	30	Cか2	
P20	隅丸方形	45	32	12	C<4		P59	隅丸方形	42	36	15	Cか2	
P21	隅丸方形	45	45	18	Cけ4		P60	円形	28	25	16	Cか2	
P22	楕円形	70	56	24	Cけ4		P61	方形	36	25	13	Cか2	
P23	円形	37	36	18	Cこ4		P62	楕円形	47	35	19	Cか2	
P24	円形	42	48	23	Cこ4		P63	円形	30	30	15	Cか3	
P25	円形	48	45	24	Cこ3		P64	方形	39	30	24	Cき3	
P26	楕円形	64	(48)	25	Cこ3	切り合い-P144	P65	方形	36	36	18	Cき4	
P27	双円形	36	25	20	Cこ3		P66	楕円形	40	25	20	Cき4	
P28	隅丸方形	79	65	24	Cこ2		P67	円形	22	22	18	Cか3	
P29	楕円形	72	55	22	Cけ2		P68	円形	30	30	10	Cか4	
P30	楕円形	48	38	14	Cけ1		P69	双円形	69	39	16	Cか4	
P31	楕円形	54	44	16	C<3		P70	円形	35	33	11	Cか4	
P32	方形	28	27	18	C<3		P71	楕円形	60	42	27	Cか4	切り合い-P72
P33	楕円形	47	35	20	C<2	D8を切る	P72	円形	44	36	16	Cか4	切り合い-P71
P34	不整形	62	57	35	Cき3		P73	楕円形	46	22	16	Cか4	
P35	円形	54	50	34	Cき3		P74	不整形	40	37	13	Cか4	
P36	楕円形	80	65	40	Cき3		P75	円形	46	44	27	Cか4	
P37	楕円形	76	57	20	Cき2		P76	楕円形	100	82	32	Cか4	
P38	楕円形	58	46	24	Cき3		P77	楕円形	56	45	20	Cか4	
P39	不整形	54	40	20	Cき2		P78	不整形	80	68	25	Cお3	

ピット観察表 (1)

( )推定値 ( )残存値

遺構名	形態	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	位置	備考	遺構名	形態	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	位置	備考
P79	不整形	77	47	20	Cお3		P113	楕円形	65	55	20	Aこ7	
P80	円形	56	48	30	Cお4		P114	円形	87	76	25	Aこ6	
P81	不整形	51	32	10	Cお3		P115	方形	48	23	45	Aこ6	
P82	楕円形	45	31	12	Cお3		P116	円形	36	34	12	Bあ6	
P83	方形	60	53	25	Cか3		P117	円形	70	62	28	Bあ6	
P84	円形	21	18	30	Cお3		P118	円形	64	57	50	Bあ5	
P85	楕円形	62	36	15	Cお3		P119	円形	30	30	20	Bあ6	
P86	楕円形	44	32	10	Cか2		P120	不整形	104	74	38	Aけ5	
P87	円形	36	29	10	Cお3		P121	円形	100	94	32	Aけ5	
P88	隅丸方形	40	35	24	Bき10		P122	方形	34	24	13	Aけ5	
P89	隅丸方形	40	32	14	Bき10		P123	楕円形	58	34	17	Aけ6	
P90	円形	(47)	38	28	Bき10	切り合い-P91	P124	楕円形	79	61	30	Aけ6	
P91	円形	(68)	67	20	Bき10	切り合い-P90	P125	円形	46	54	18	Aけ6	
P92	楕円形	25	18	20	Bか10		P126	方形	32	25	14	Aけ4	
P93	楕円形	50	32	28	Cか1		P127	円形	26	22	10	Aけ4	
P94	円形	30	29	50	Cえ2		P128	円形	56	49	18	Aけ5	
P95	円形	30	30	12	Aき6		P129	楕円形	105	82	22	Aき6	切り合い-P142
P96	円形	68	61	22	Bう8		P130	円形	35	33	8	Aく5	
P97	不整形	86	68	26	Bい7		P131	円形	32	29	10	Aく5	
P98	円形	64	61	35	Bい7		P132	不整形	77	76	27	Aく6	
P99	(楕円形)	(64)	50	46	Bい8	攪乱に切られる	P133	-	76	(36)	32	Aく6	切り合い-P134
P100	円形	63	58	32	Bあ8		P134	不整形	103	64	15	Aく6	切り合い-P133
P101	円形	33	30	20	Bあ8		P135	楕円形	60	49	32	Aく7	
P102	円形	66	65	56	Bあ8		P136	隅丸方形	26	24	14	Cき4	
P103	方形	60	56	9	Bあ8		P137	不整形	73	63	15	Bあ10	
P104	楕円形	93	67	26	Aこ8		P138	(方形)	48	(45)	20	Cく4	切り合い-II1
P105	円形	43	42	10	Aこ8		P139	隅丸方形	70	62	18	Aく7	
P106	円形	46	46	22	Aけ8		P140	楕円形	73	58	20	Aき7	
P107	楕円形	52	42	15	Aけ8		P141	円形	66	66	24	Aき7	
P108	楕円形	40	31	15	Aけ7		P142	円形	95	83	35	Aき6	切り合い-P129
P109	不整形	76	61	25	Aけ7		P143	円形	44	40	28	Cけ3	
P110	円形	52	50	22	Aけ7		P144	(円形)	56	(40)	12	Cこ3	切り合い-P26
P111	隅丸方形	39	39	18	Aこ7		P145	円形	26	26	40	Bえ10	
P112	不整形	50	42	10	Aこ7		P146	円形	28	28	48	Bお10	

ピット観察表(2)

( )推定値 ( )残存値

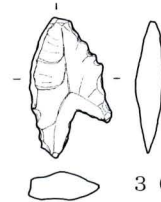
第4節 遺構外遺物



1 (A-け-7)



2 (B-う-7)



3 (A-け-7)

遺構外遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	横ナデ	口縁破片	内外面7.5YR6/4にふい橙色 断面実測 A-け-7グリッド
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	横ナデ	口縁破片	外面10YR7/4にふい横褐色 断面実測 B-う-7グリッド
番号	器種	器形	長さcm	幅cm	厚さcm	調整・文様	重さg	備考
3	石器	鏃	1.81	1.05	0.36	片側一部欠損	0.57	黒曜石製 A-け-7グリッド

遺構外遺物観察表



周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ調査区全景（北東から）



周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ調査区全景（南西から）



調査開始前状況（南西から）



表土除去作業（南西から）



調査風景・表土除去作業（南西から）



表土排出状況（西から）



排出土状況（西から）



ハウス等設置・駐車場整地等状況（北東から）



基準杭設定状況（南西から）



調査風景遠景（南西から）



調査風景（南西から）



調査風景（南西から）



調査風景（南から）



H1号住居址全景（南西から）



H1号住居址土坑



H1号住居址炉



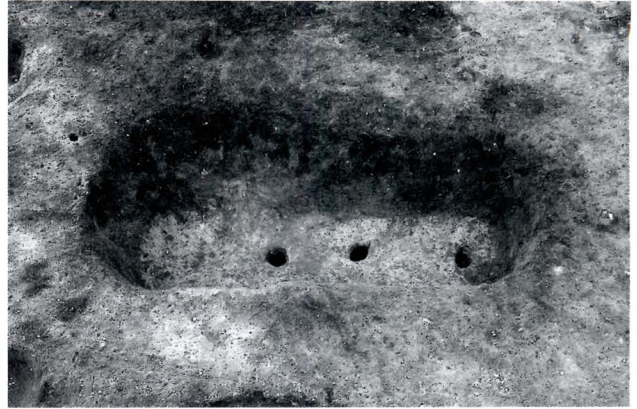
H1号住居址壁際ピット（北東から）



H1号住居址掘方（南西から）



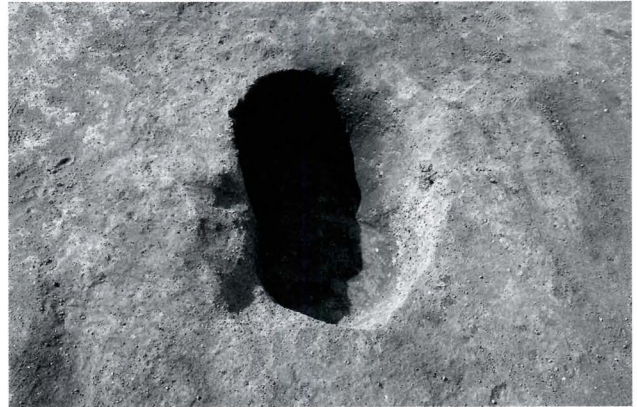
D1・2・3号土坑全景（南西から）



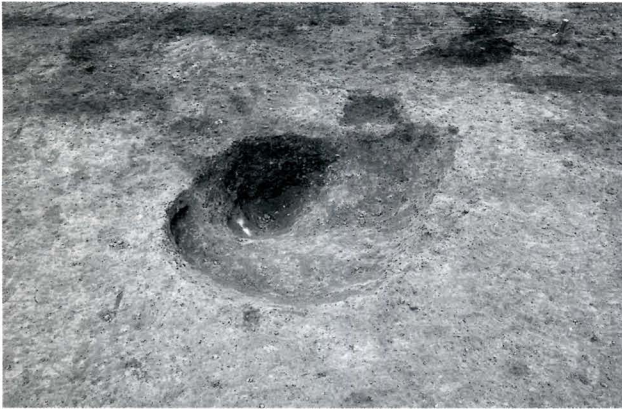
D4号土坑全景（南東から）



D5号土坑全景（西から）



D6号土坑全景（南から）



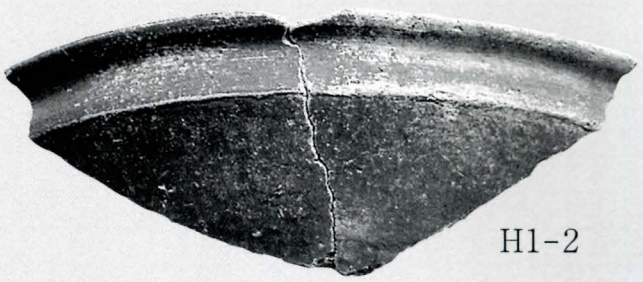
D7号土坑全景（南西から）



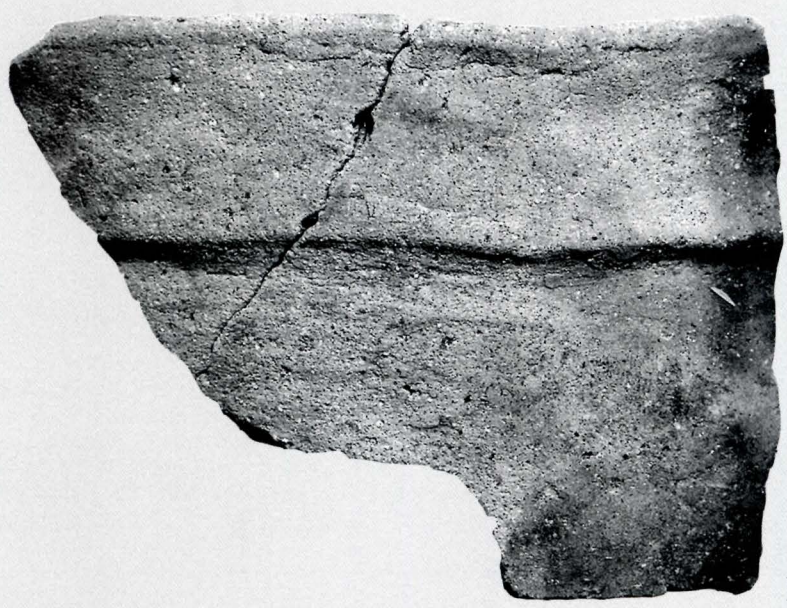
D8号土坑全景（南東から）



H1-1



H1-2



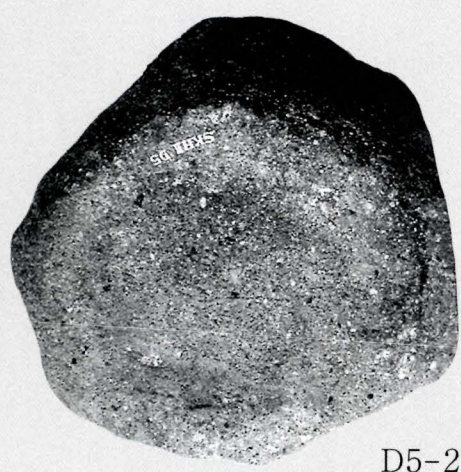
D5-1



遺構外-1



遺構外-2



D5-2



遺構外-3

ふりがな	すほうばたいせきぐん しもきたはらいせきに							
書名	周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ							
副書名	-							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第228集							
編著者名	上原 学							
編集機関	佐久市教育委員会文化財課							
所在地	長野県佐久市志賀5953 TEL 0267-68-7321 FAX 0267-68-7323							
発行年月日	平成26年(2014)12月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
すほうばたいせきぐんしもきたはらいせきに	さくしながとろ	20217	7	36° 17' 35"	138° 28' 14"	20140430 ～ 20140530	1,110	斎場施設建設事業(進入道路築造及び代替地の造成)
周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ	佐久市長土呂 862-6、863-1							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ	集落	古墳・縄文	竪穴住居址1軒、土坑8基、ピット146個		土器、石器		遺跡の状況が不鮮明であった地域から縄文時代の土坑、古墳時代前期の住居址等を確認することができた。	
要約	佐久市北部に発達した、浅間山の麓から放射状に延びる浸食谷に分断された田切り地形の台地上に位置する遺跡である。本遺跡が所在する周防畑遺跡群北部地域は、南方の佐久平駅西側一帯の遺跡密集地に比べ、発見される遺構数が希薄な地域で、遺跡の状況が不鮮明な地域であった。今回、斎場施設建設事業に伴い、一部地域から、縄文時代の土坑、古墳時代前期と考えられる住居址1軒及び柱穴と思われる多数のピットが発見された。本調査区北西の浸食谷対岸に所在する鎌田原遺跡(小諸市)及び北近津遺跡Ⅱでは、佐久地域で確認される遺構数が少ない、古墳時代前期の住居址が比較的まとまって発見されており、今回、浸食谷を隔てた、本遺跡で発見された単独の住居址との関連が興味深い調査となった。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第228集  
周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ

平成26年(2014)12月

編集・発行 佐久市教育委員会  
〒385-8501 長野県佐久市中込 3056  
文化財課  
〒385-0006 長野県佐久市志賀 5953  
TEL 0267-68-7321

印刷所 白田活版株式会社  
〒384-0301 長野県佐久市白田 2016  
TEL 0267-82-2109